

Activate Your Life

輝け、カガクで。



決算補足説明資料

2025年12月期 通期

 日華化学株式会社

東証スタンダード:4463 | 2026年2月13日

目次

- 01** 2025年12月期通期 決算概要

- 02** 2026年12月期通期 業績・配当予想

- 03** 新中期経営計画

- 04** Appendix

01

2025年12月期 通期
決算概要

売上高・営業利益ともに過去最高 経常利益は為替の影響で、当期純利益は税金費用増で減益

化学品事業

増収・増益

売上高、セグメント利益額・率ともに過去最高

- EHD※関連製品売上高比率増による利益率向上
- 主力の繊維化学品／トランプ関税の影響で稼働減速も中国中心に大手加工場高稼働
- 半導体加工用クーラント剤回復途上
- 金属加工用洗浄剤伸長

※ E(環境/Environment)、H(健康・衛生/Health)、D(デジタル、先端材料/Digital)向けの高付加価値製品

化粧品事業

増収・増益

売上高は過去最高

- ODM事業好調
- 国内美容サロン市場来店客数減の中、デミ注力商品販売堅調
- デミコリア 韓国経済不調の影響継続

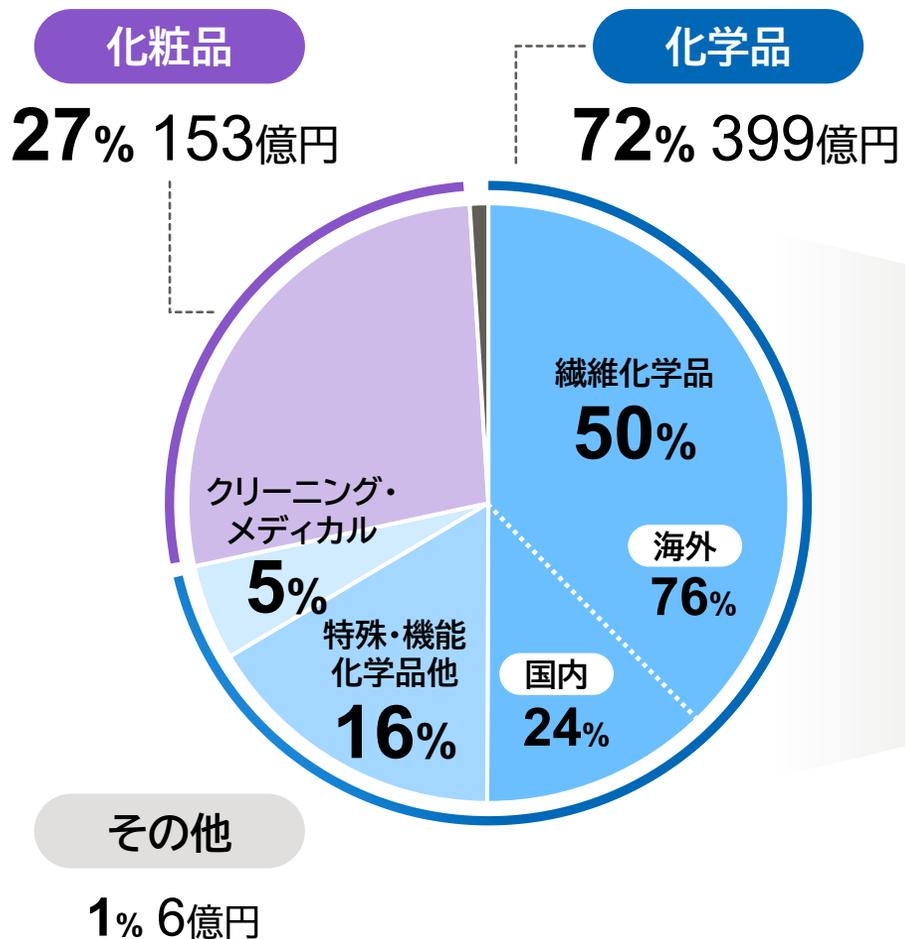
2025年12月期通期 連結決算概要

	2024年12月期 実績		2025年12月期 実績		増減額	増減率
	(百万円)	構成比	構成比	構成比		
売上高	54,099	100%	55,705	100.0%	+1,606	+3.0%
■ 化学品事業	39,378	72.8%	39,894	71.6%	+516	+1.3%
■ 化粧品事業	14,271	26.4%	15,259	27.4%	+988	+6.9%
その他	449	0.8%	550	1.0%	+101	+22.5%
営業利益 (営業利益率)	3,519 (6.5%)	-	3,847 (6.9%)	-	+327	+9.3%
■ 化学品事業(セグメント利益)	3,724	66.5%	3,948	65.8%	+224	+6.0%
■ 化粧品事業(セグメント利益)	1,822	32.5%	1,966	32.7%	+144	+7.9%
その他	58	1.0%	90	1.5%	+31	+53.9%
消去等	△2,085	-	△2,158	-	△73	-
経常利益	3,976	-	3,849	-	△126	△3.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,754	-	2,384	-	△370	△13.4%

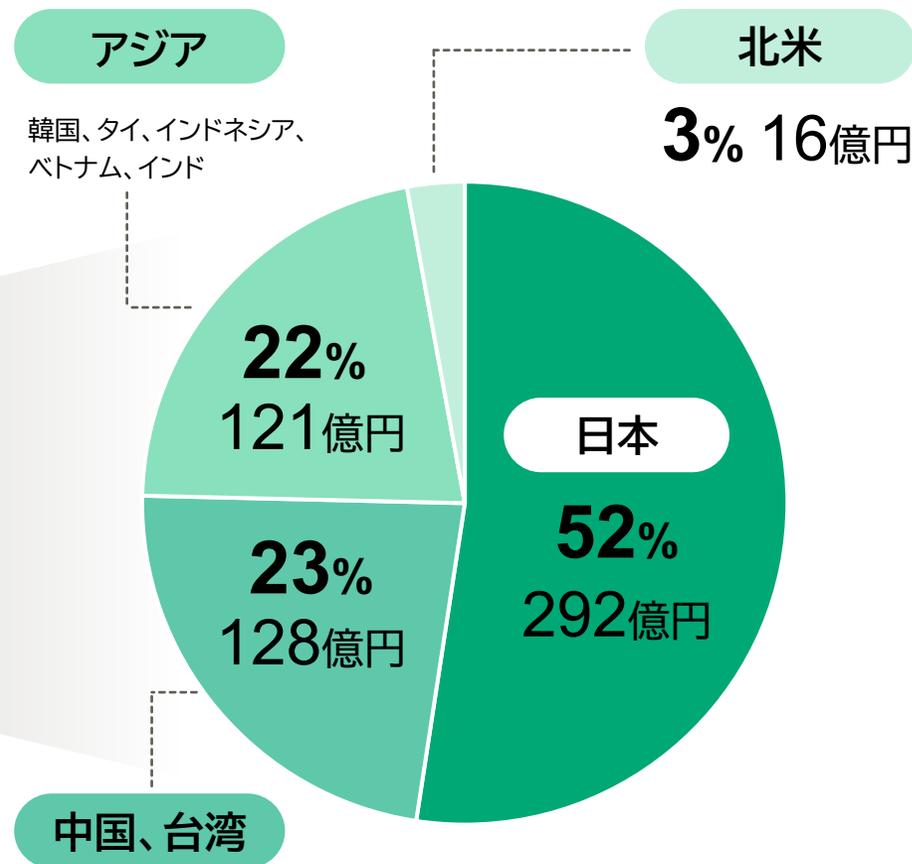
為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	150.42円(0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)		73,400円(+1.2%)	66,300円(△16.2%)	63,200円(△17.8%)	65,600円(△10.4%)

事業別・所在地別 売上高比率

事業別 売上高比率



所在地別 売上高比率



2025年12月期
売上高

557億円

売上高は億円未満四捨五入
%は小数点以下四捨五入

経営指標の概要

- EBITDAは営業利益増により増加、ROA、ROICは総資産増、ROEは純利益減により減少
- PBRは株価+37%（前年同期末比）により向上

(百万円)	2024年12月期 実績	2025年12月期 実績	増減額	増減率
ROA	5.9%	5.6%	-	△0.3 pt
ROE	8.6%	6.9%	-	△1.7 pt
ROIC	5.8%	5.1%	-	△0.7 pt
PBR	0.57倍	0.74倍	-	+0.17 pt
EBITDA	5,743	5,975	+231	-
減価償却費	2,224	2,128	△95	-
年間配当(円)	52	60		

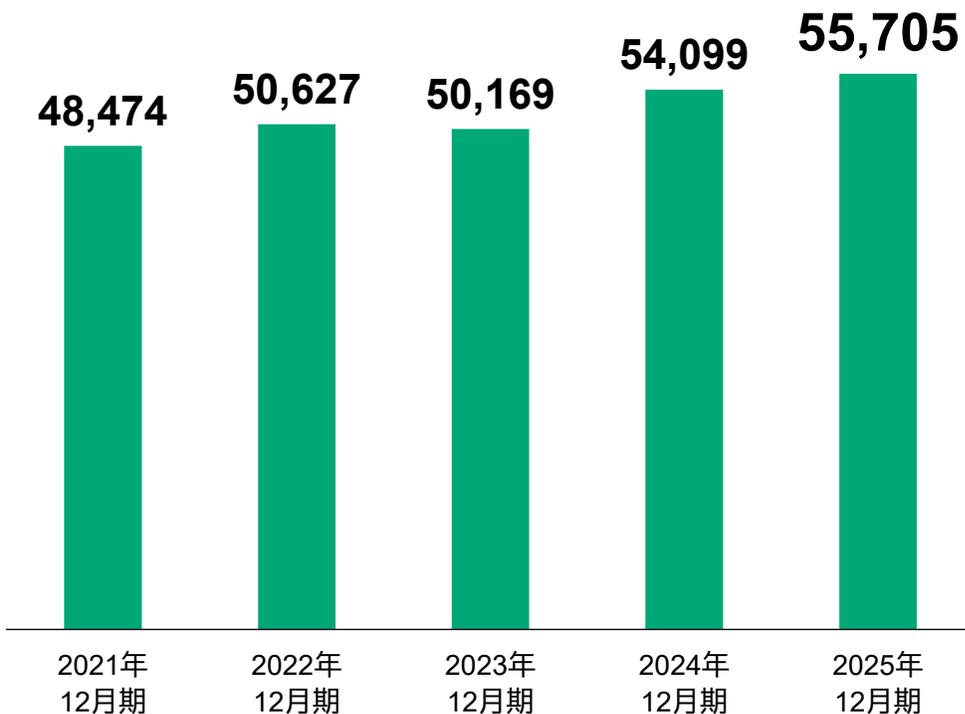
※ 2025年12月期年間配当金のうち期末配当30円については2026年3月26日開催の定時株主総会で決議予定

連結売上高・営業利益の推移

- 2期連続の増収・増益でいずれも過去最高
- 営業利益率も向上

売上高

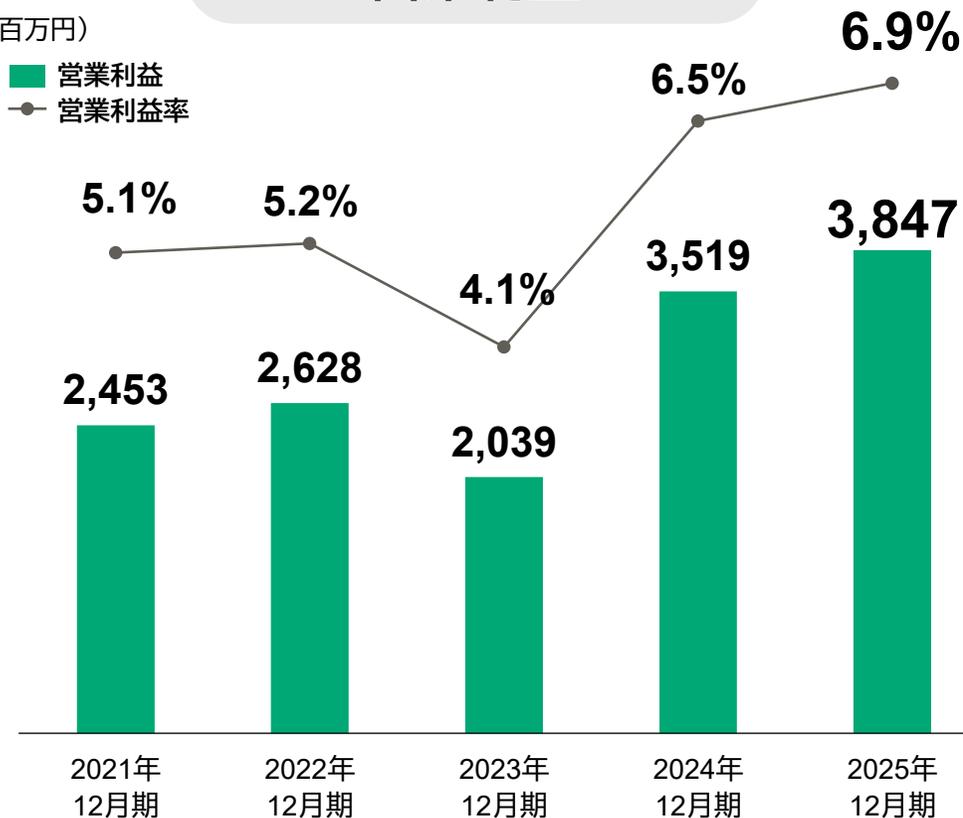
(百万円)



営業利益

(百万円)

■ 営業利益
● 営業利益率

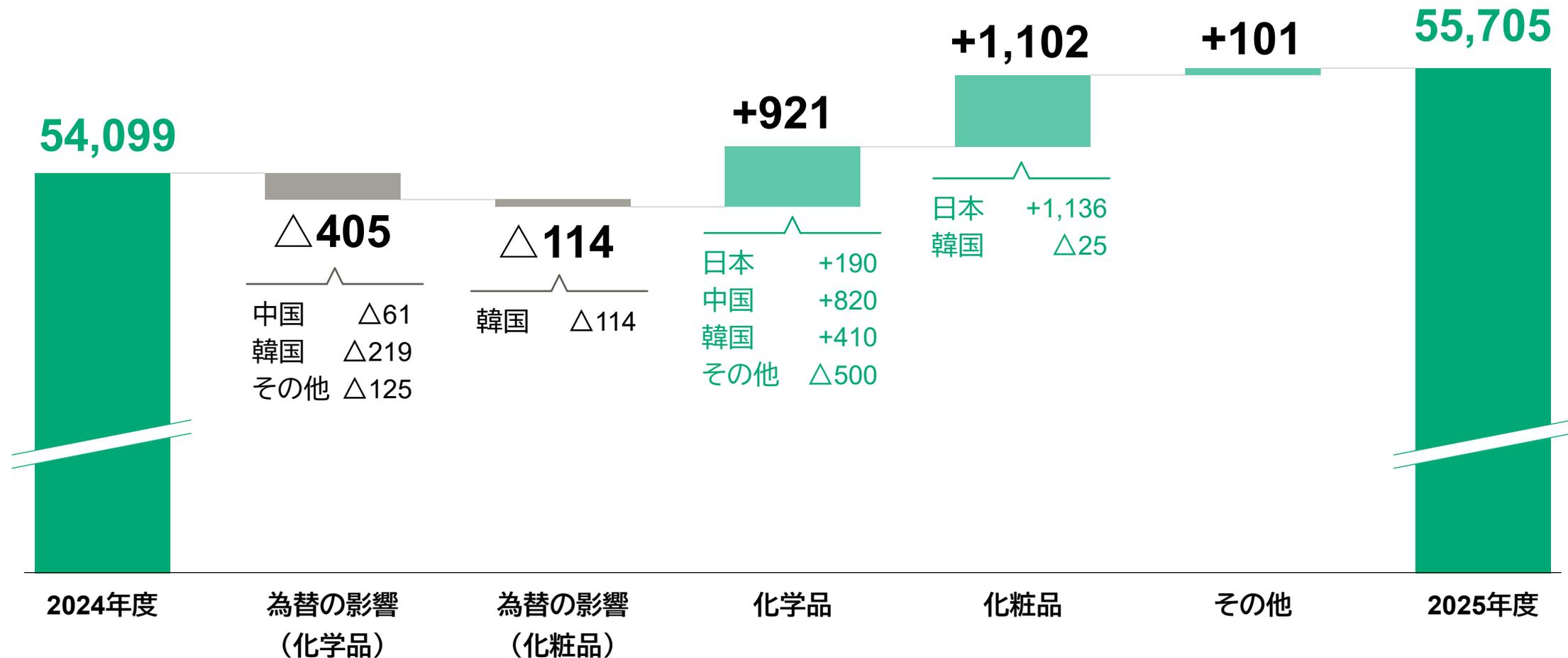


※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期から適用。2021年12月期については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値。

連結売上高 増減要因

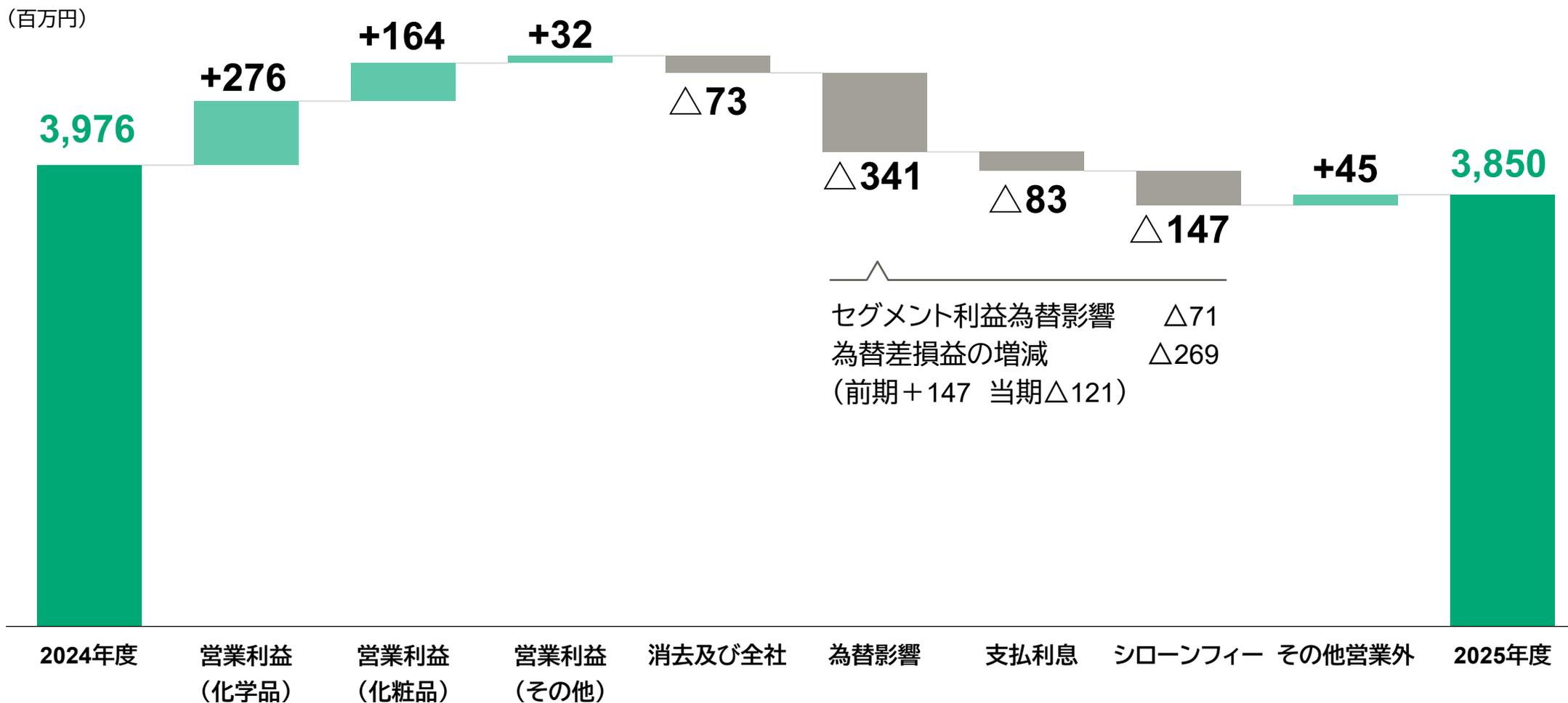
- 為替の影響: 化学品事業△4億円 化粧品事業△1億円 期中平均レート150.42円(前期151.42円)
- 化学品事業 +9.2億円増収 化粧品事業 +11億円増収

(百万円)



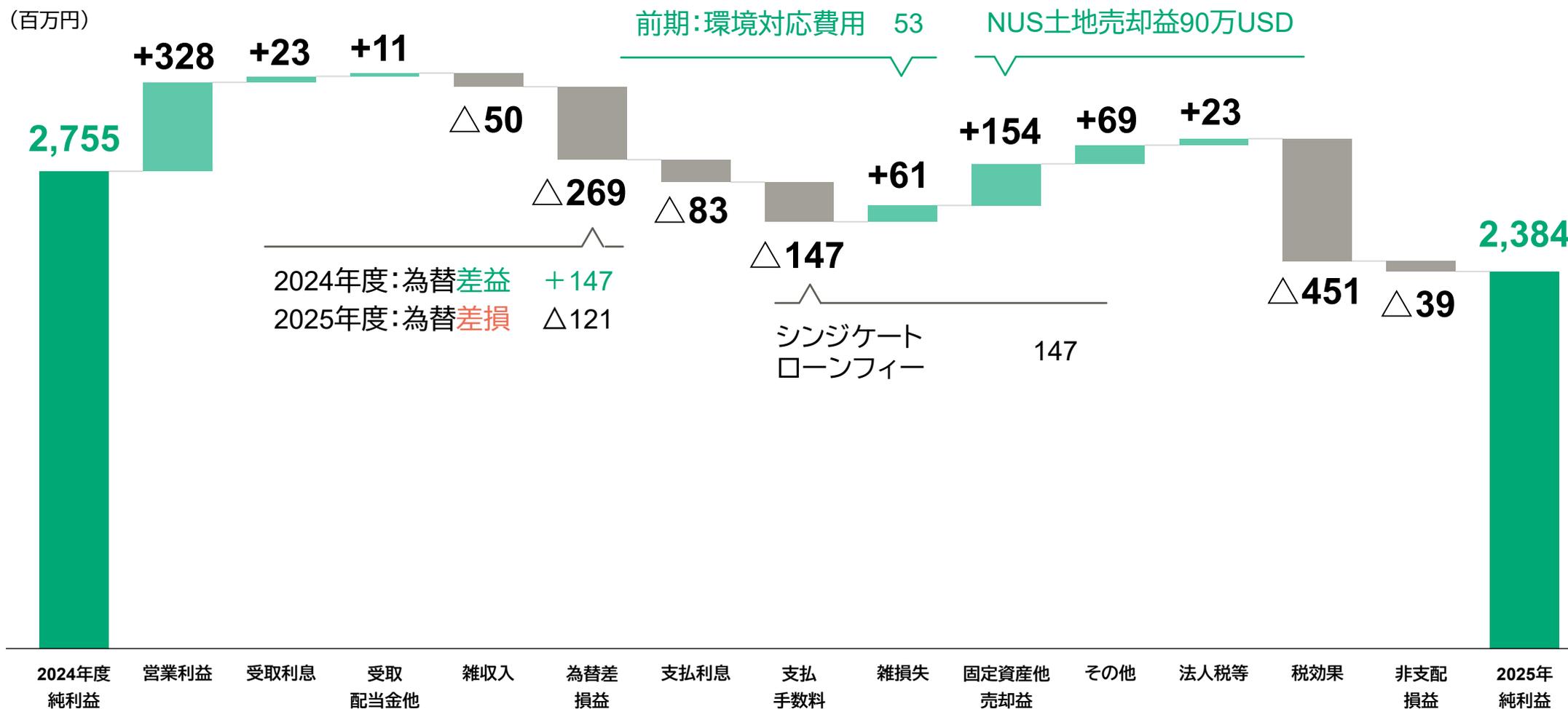
連結経常利益 増減要因

- 営業利益 化学品事業 +2.7億円 化粧品事業 +1.6億円
- 為替差損益の影響 為替期末日レート(\$) 24年12月158.17円→156.54円(1.63円の円高)



営業外損益/特別損益/税引後利益(対前年)

- 特別損益/固定資産他売却益 +1.5億円 税効果会計(繰延税金資産の取崩し) △4.5億



セグメント概要

化学品事業

- 創業以来培った繊維加工のトータルソリューション技術を幅広い市場に応用
- 2015年に大智化学産業を買収し、成長著しいデジタル分野にも展開



繊維加工用薬剤



クリーニング用薬剤



スペシャリティケミカル
(特殊化学品・機能化学品)



スペシャリティケミカル
(先端材料)

主要な 関係会社

- 大智化学産業株式会社(半導体産業向け)
- 日華化学(中国)有限公司
- NICCA KOREA CO., LTD. 他13社

化粧品事業

- 主カブランド「DEMI」を中心とした、プロフェッショナル向け美容室専売品の研究開発
- お客様の声に耳を傾け、髪健康と美しさを追究



ヘアケア



スカルプケア



ヘアカラー



スタイリング

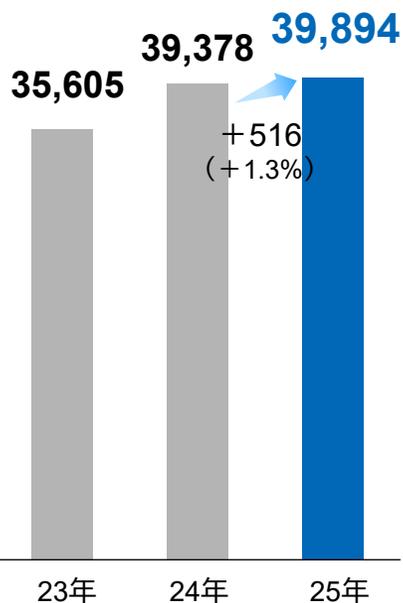
主要な 関係会社

- 山田製薬株式会社(化粧品OEM/ODM)
- イーラル株式会社
- DEMI KOREA CO., LTD. 他2社

- トランプ関税の影響を受けたが、EHD※関連製品堅調、中国・インド等伸長により、4Qのみ、累計ともに売上高・セグメント利益額・率は過去最高

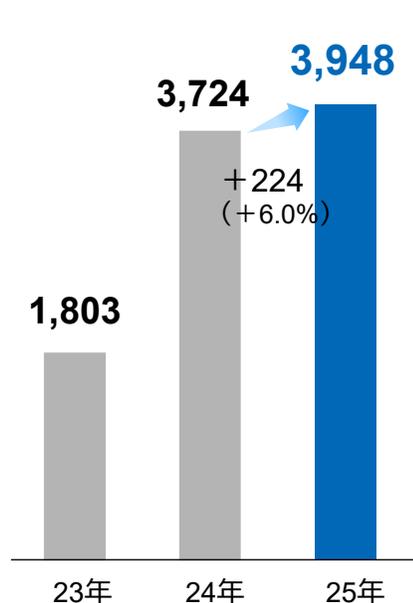
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	
	150.42円 (0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)	
国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	73,400円 (+1.2%)	66,300円 (△16.2%)	63,200円 (△17.8%)	65,600円 (△10.4%)

主な増減要因

売上高

繊維化学品分野

- + EHD※関連製品販売 引き続き好調
フッ素フリー系撥水剤、環境配慮型工程薬剤など
- + 中国中心に海外大手繊維加工場の高稼働(～4月)
- 5月～トランプ関税の影響で海外繊維加工場稼働減速も足元回復傾向
- + インドビジネス成長

電子材料関係分野

- + 半導体加工用クーラント剤回復途上(前年1Q低調)
- + グローバルで新規ビジネス増加

機能化学品分野

- + 金属加工用洗浄剤伸長

セグメント利益

- + EHD※関連製品(高付加価値品)売上高比率増
- 人件費増加

※ E(環境/Environment)、H(健康・衛生/Health)、D(デジタル、先端材料/Digital)向けの高付加価値製品

施策	進捗状況／通期
<p>成長・高収益事業への傾注</p> <ul style="list-style-type: none"> • EHDに紐づく新規ビジネス・新規エリアの獲得（EHD売上比率50%） • グループ一体となったグローバル拡販 • デジタル領域のグローバル展開と新規ビジネスの創出 	<ul style="list-style-type: none"> • EHD製品売上高比率 通期で45.1%（前年同期比+0.8pt） *EHD製品利益率／従来製品比 +11.9%〈25年12月期実績〉 • 新規ビジネス・エリア／新たな電子材料分野の取組開始、繊維加工薬剤でインド伸長 • グローバル拡販／フッ素フリー系撥水剤、環境配慮型工程薬剤 伸長継続 • デジタル領域グローバル展開／台湾、韓国中心に推進中
<p>収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戦略的調達によるコストダウン（中国、インド、オレオ化学品） • マーケティング力とプライシング力の強化 • リスクマネジメント（為替、地政学） 	<ul style="list-style-type: none"> • マーケティング力・プライシング力強化／一部価格改訂・原料代替取組中 • リスクマネジメント／トランプ関税による影響継続注視

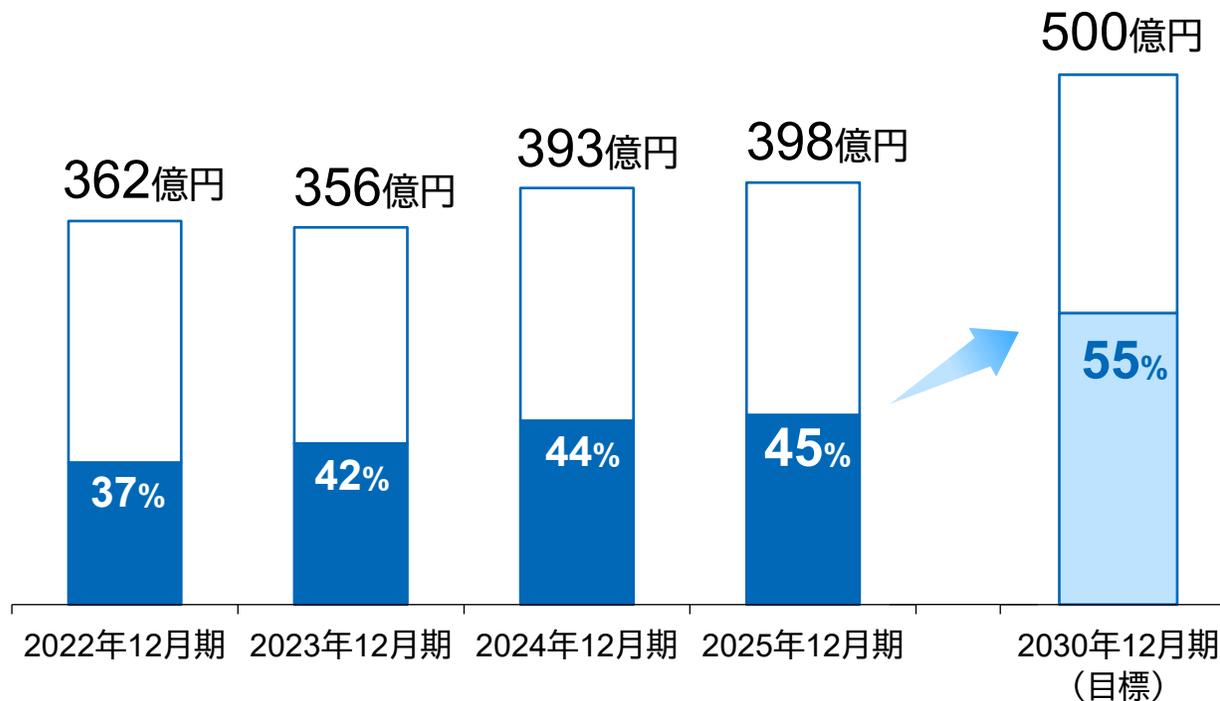
EHDシフトの推進

- 化学品事業はEHD売上高比率の向上余地が大きく、比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる
- EHD製品利益率：従来製品比 +11.9%〈25年12月期実績〉

化学品事業における

EHD製品の売上高比率

■ EHD
□ その他





インド(NID) ラボの建設で ニーズに合わせた現地開発を加速

- 現地顧客の使用環境・条件に合わせた製品開発を加速させるため、ラボ(研究施設)を新設
- 中国に次ぐ第2の巨大マーケットにおいて、さらなる販路拡大を目指す

事業進捗

2020年	現地法人(NID)設立
2022年	コロナ渦を経て本格稼働
2024年	本格稼働から2年で黒字化
2025年	更なる成長見込み
2026年1月	新ラボ稼働開始



NICCA INDIA PRIVATE LIMITED (NID)



Bangladesh 保税倉庫による 安定供給体制の構築とシェア拡大の推進

- 原材料を100%輸入に依存する現地市場に対し、保税倉庫による即納体制を整備
- 輸入手続き等の顧客負担を解消する「原材料の代替提供」を実現し、中長期的なシェア拡大を図る

事業進捗

2023年	保税倉庫建設に着手も、現地の法改正や政変の影響により一時中断
2025年	倉庫建設再開
2026年7月	竣工
2027年1月	営業開始予定

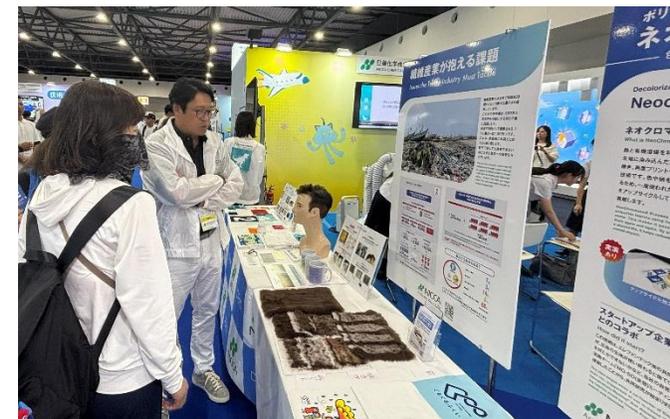


起工式の様子(2025年10月14日)



大阪・関西万博に「ネオクロマト加工®」出展 ポリエステル繊維アップサイクル技術を発信

- 2025年10月5日(日)～7日(火)、大阪・関西万博内 EXPOメッセ「WASSE」にて、日本弁理士会主催「万博で未来を体験しよう」(学生向けビジネス／技術アイデアコンテスト)に出展
- 水を使わずに、ポリエステル繊維を脱色する独自技術「ネオクロマト加工®」の実演プレゼンを実施



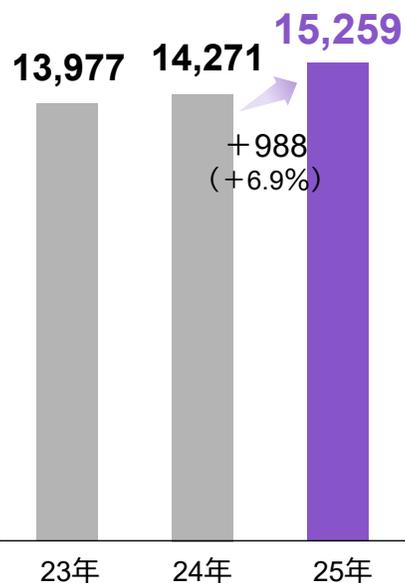
主な成果・反響

- 来場者数:延べ約**1,700名**(学生36チームを含む)
- 学生から「水を使わずに色が抜けてすごい」「再利用の可能性を感じた」など多数の声
- **武藤経済産業大臣が当社ブースを訪問し、環境技術を視察**

- ODM事業好調、注力商品販売堅調で、韓国経済停滞の影響はあるものの、増収・増益
- 下期、累計ともに売上高は過去最高

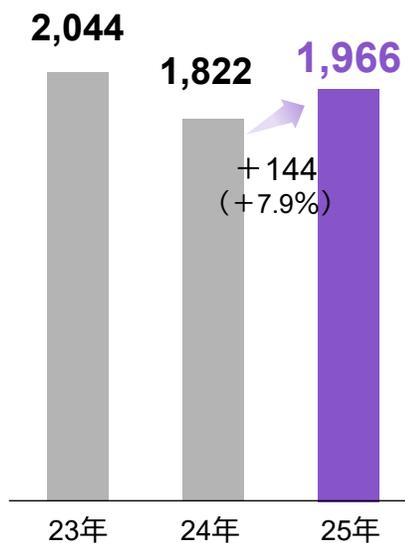
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	
	150.42円 (0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)	
国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	73,400円 (+1.2%)	66,300円 (△16.2%)	63,200円 (△17.8%)	65,600円 (△10.4%)

主な増減要因

売上高

日華化学デミ コスメティクス (国内サロン向け)

- + 注力商品販売堅調(フローディアモアが好調)
- 国内美容サロン市場、酷暑や物価高による来店サイクル長期化で来店客数減

山田製薬(国内ODM)

- + ODM事業好調
既存大口ODM受注減も、前年新規ODM(EC専業ヘアケア等)の受注大幅増継続

デミコリア

- + 韓国市場専用ヘアケア販売増
- 韓国経済停滞の影響継続

セグメント利益

- + 売上増に伴う利益増
- 人件費増加

施策	進捗状況／通期
優良サロンの獲得 <ul style="list-style-type: none">・営業人員増強によるサロンサポート強化・DEMI LABOを起点としたユーザー認知と顧客獲得	<ul style="list-style-type: none">・営業人員増員、新規サロン獲得・既存サロン顧客内シェア拡大に向けた活動を強化・オウンドメディア「DEMI LABO」 PV数:193万PV (昨対比: +49.6%)・トライアルEC購入者数:3,100名 (昨対比: +16.8%)
新商品によるサロン内シェアアップ <ul style="list-style-type: none">・新ブランド「サマーバー」、「DEMI DO」追加品	<ul style="list-style-type: none">・ヘアケア／サマーバー 堅調に推移(前年同期ハレマオ比+28%)・DEMI DO 追加品 拡販中
デミコリア／店販を基軸にシェア拡大	<ul style="list-style-type: none">・ヘアケア売上 +14%(韓国経済停滞の中、健闘)
化粧品新工場建設開始	<ul style="list-style-type: none">・予定通り進捗(鉄骨工事・屋根工事完了、外壁・内装工事着工中)



化粧品新工場建設 予定通り進捗

- 名称は「福井スマートファクトリー」に決定
- 2027年の本格稼働に向け、2025年12月に上棟式完了、鉄骨工事・屋根工事完了、外壁・内装工事着工中
- 2025年12月、シンジケートローン契約に基づき30億円借入実施



建設工事の様子(2月9日 時点)

■ 化粧品新工場 概要

- 製造キャパシティ**3倍**
- 自動化による人時生産性**1.5倍**
- CO₂排出削減など**環境対応工場**



イメージパース図

福井スマートファクトリー

本格稼働	2027年	投資規模	約195億円
建設予定地	福井県福井市稲津町・ 荒木新保町 (北陸道福井ICより0.5km)	補助金上限額	49億 9,991万円(補助率1/3)
面積	土地/39,772㎡ 建物/23,000㎡(延床面積)	資金調達	総額140億円の シンジケートローン



当社スカルプケア技術が 令和7年度近畿地方発明表彰「日本弁理士会会長賞」を受賞

- 2025年10月30日、当社と国立研究開発法人理化学研究所による共同発明「育毛効果を有する頭皮頭髪用化粧品」が、高い技術的独創性と社会的貢献度が認められ、「日本弁理士会会長賞」を受賞

発明の概要

- 植物由来成分を組み合わせ、毛髪の成長を助けるたんぱく質「FGF-7」を増やし、科学的根拠に基づく新しい育毛メカニズムを確立
- 3カ月という短い使用期間でも、抜け毛数の減少や、毛髪1本1本が太くなるという変化が視覚的に明らかに
- 安全性と有効性を両立

育毛作用試験前後の頭頂部写真



試験前



試験後 (3カ月使用)

受賞名	日本弁理士会会長賞
受賞発明/特許番号	育毛効果を有する頭皮頭髪用化粧品/特許第7323143号
受賞者	日華化学(株) 毛髪科学研究所 小竹 彩香・新 菜摘・谷口 優子 (株)オーガンテック(元国立研究開発法人 理化学研究所) 辻 孝・小川 美帆



「2025年度QCサークル経営者賞」を受賞

- 2025年11月、現場発の改善をグローバルに育てた取り組みと、地域活動への長年の支援が評価され、当社代表取締役社長 江守康昌が、「2025年度 QCサークル経営者賞」を受賞

授賞式の様子(2025年11月18日)
佐々木理事長より表彰状と楯を授与されました

当社QCサークル活動の歴史

- 1960年代** QCサークル活動を開始
- 1985年** 全社的な推進体制を構築し、業務効率や品質向上に向けた活動を強化
- 2001年** 海外拠点を含めたグループ全体へと改善文化を広げる取り組みを本格的に開始
- 2024年** 「2024年度 QCサークル活動優良企業・事業所表彰」を受賞
- 2025年** 「2025年度 QCサークル経営者賞」を受賞

「QCサークル経営者賞」とは

一般財団法人 日本科学技術連盟がQCサークル(小集団改善活動)の指導や育成に積極的に取り組み、その発展に大きく寄与した経営者を表彰するもの。2000年に内規が定められて以降、現在までに33名の方が受賞





当社ウェブサイト「コア技術」ページリニューアル

- 2026年1月、当社ウェブサイト「コア技術」ページをリニューアル
- 界面科学の知見やメカニズムを基盤とした、5つのコア技術についてご説明しています。是非ご覧ください！

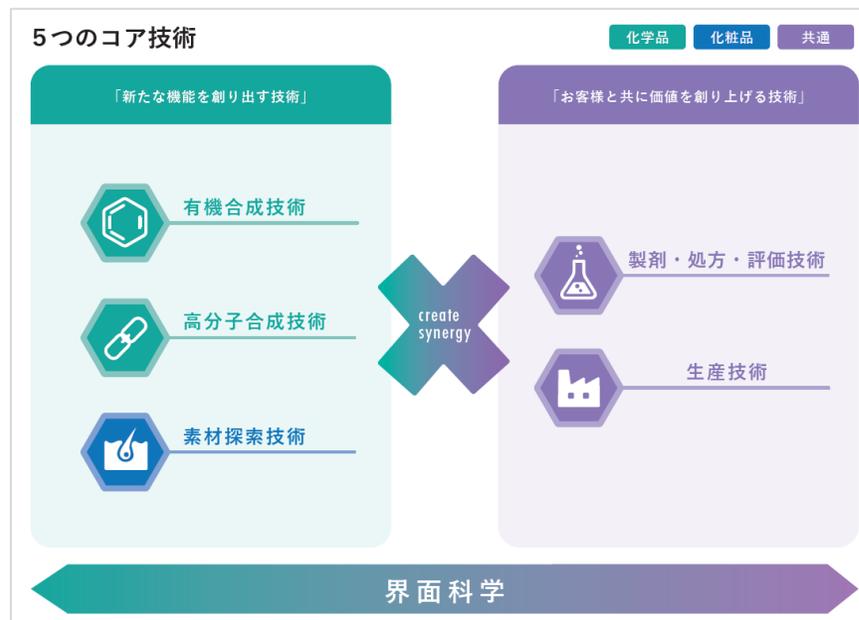
コア技術

技術を、掛け合わせる。可能性を、デザインする。
 ～未来のあたりまえをアップデートする、NICCAの界面科学～

私たち日華化学は、異なる物質の境界である「界面」を科学し、そこに新たな価値や機能を生み出す化学メーカーです。雨を弾いたり、汗をかいてもすぐ乾く衣類で快適に過ごせること。汚れがついてもクリーニングできれいになること。ダメージを抑えながら、自分らしいヘアスタイルを楽しめること。そんな日常の「あたりまえ」の心地よさも、実は「界面」をコントロールする私たちの技術が支えています。



当社の製品は、お客様が求める機能を実現する手段として、「界面科学」の知見やメカニズムを活用しています。そして、その機能を製品としてかたちにするうえで欠かせないのが、「有機合成技術」「高分子合成技術」「素材探索技術」「製剤・処方・評価技術」「生産技術」の5つのコア技術です。



● 詳細はこちらをご覧ください <https://www.nicca.co.jp/corporate/core.html>

※画像はウェブサイトの一部抜粋

連結貸借対照表

	2024年12月期 期末	2025年12月期 期末	増減額	
(百万円)				
資産	62,366	74,052	+11,686	(主な増減要因) ・ 現金及び預金 +1,122 ・ 建設仮 +10,703 ・ ソフト仮 +516
流動資産	34,221	35,715	+1,493	
固定資産	28,144	38,336	+10,192	
負債	25,812	35,697	+9,885	(主な増減要因) ・ 借入金+8,634
流動負債	17,143	22,983	+5,840	
固定負債	8,668	12,713	+4,044	
純資産	36,553	38,354	+1,800	(主な増減要因) ・ 利益剰余金 +1,460 ・ 退職給付関連 (制度変更影響) △451 ・ 為替換算調整勘定 +325
負債純資産合計	62,366	74,052	+11,686	
自己資本比率	54.0%	47.5%	△6.4pt	
有利子負債	9,902	18,536	8,634	

連結キャッシュフロー

- 営業CF：+55億円(収入) EBITDA 59億円
- 投資CF：△115億円(支出) 固定資産取得による支出119億円
- 財務CF：+73億円(収入) 借入金増84億円、配当金支払9億円

(百万円)	2024年12月期	2025年12月期	増減額
営業CF	6,033	5,542	△491
投資CF	△5,137	△11,539	△6,402
財務CF	△328	7,384	+7,713
期末現預金残高	10,726	11,848	+1,122

02

2026年12月期 通期

業績・配当予想

2026年12月期通期 業績予想の前提

外部環境

- ・ 世界経済は引き続き先行き不透明な状況が続く／各国の政治・通商政策の動向、地政学的リスク、為替相場の変動等
- ・ 国内消費動向も物価や所得環境の影響で不透明な状況が続く



事業への 主な影響

化学品事業

繊維市場

- ・ 主力のアパレル、自動車シート・内装材向けの加工市場は、中国経済や米国の通商政策の動向次第で不透明
- ・ その中でもターゲットのイノベーション領域(新素材切替、環境対応、高付加価値化、資源循環型モデル構築等)は引き続き進展

クリーニング市場

- ・ ホームクリーニングは減少、リネンサプライは国内宿泊者、インバウンド需要が横ばい

電子材料市場

- ・ 生成AI関連・半導体は引き続き需要増。シリコンウェハー出荷面積は横ばい

化粧品事業

- ・ サロンの優勝劣敗が進む
- ・ サロンヘアケアは継続成長
- ・ ODM市場は堅調に推移
- ・ 韓国サロン市場も日本同様

全社

- ・ 物価高、人件費上昇、金利上昇
- ・ 想定レート 為替／米ドル150円、国産ナフサ／65,600円

化学品事業

■ 成長・高収益事業への傾注

- EHDに紐づく新規ビジネス・新規エリアの獲得（EHD売上比率48%）
- グローバル拡販強化
繊維は南西アジア、D領域は東アジア
- デジタル領域のグローバル展開と新規ビジネスの創出

■ 収益性向上

- 戦略的調達によるコストダウン（中国、インド、オレオ化学品）
- マーケティング力とプライシング力の強化
- リスクマネジメント（為替、地政学）

化粧品事業

■ 国内サロン事業

- 主力ブランドの骨太化
- 有力・有望サロンへの浸透力強化

■ 韓国サロン事業

- 店販（ヘアケア）注力
- 店販導線（業務→店販）強化

■ ODM事業

- ビッグアカウント化強化

■ 化粧品新工場

- 建屋建設完了
- 工場機能移行時に備えた在庫確保

全社

- 社員エンゲージメント向上
- AIの更なる活用
- 新ERP導入

2026年12月期通期 連結業績予想

- 売上高、各利益ともに過去最高となる見通し

	2025年12月期 実績		2026年12月期 予想		増減額	増減率
	(百万円)	構成比		構成比		
売上高	55,705	100.0%	58,500	100.0%	+2,794	+5.0%
■ 化学品事業	39,894	71.6%	41,800	71.5%	+1,905	+4.8%
■ 化粧品事業	15,259	27.4%	15,800	27.0%	+540	+3.5%
その他	550	1.0%	900	1.5%		
営業利益 (営業利益率)	3,847 (6.9%)	-	4,200 (7.2%)	-	+352	+9.2%
■ 化学品事業(セグメント利益)	3,948	65.8%	4,150	65.9%	+201	+5.1%
■ 化粧品事業(セグメント利益)	1,966	32.7%	2,050	32.5%	+83	+4.2%
その他	90	1.5%	100	1.6%		
消去等	△2,158	-	△2,100	-		
経常利益	3,849	-	4,050	-	+200	+5.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,384	-	2,800	-	+415	+17.4%
為替	米ドル 150円	国産ナフサ	65,600円			

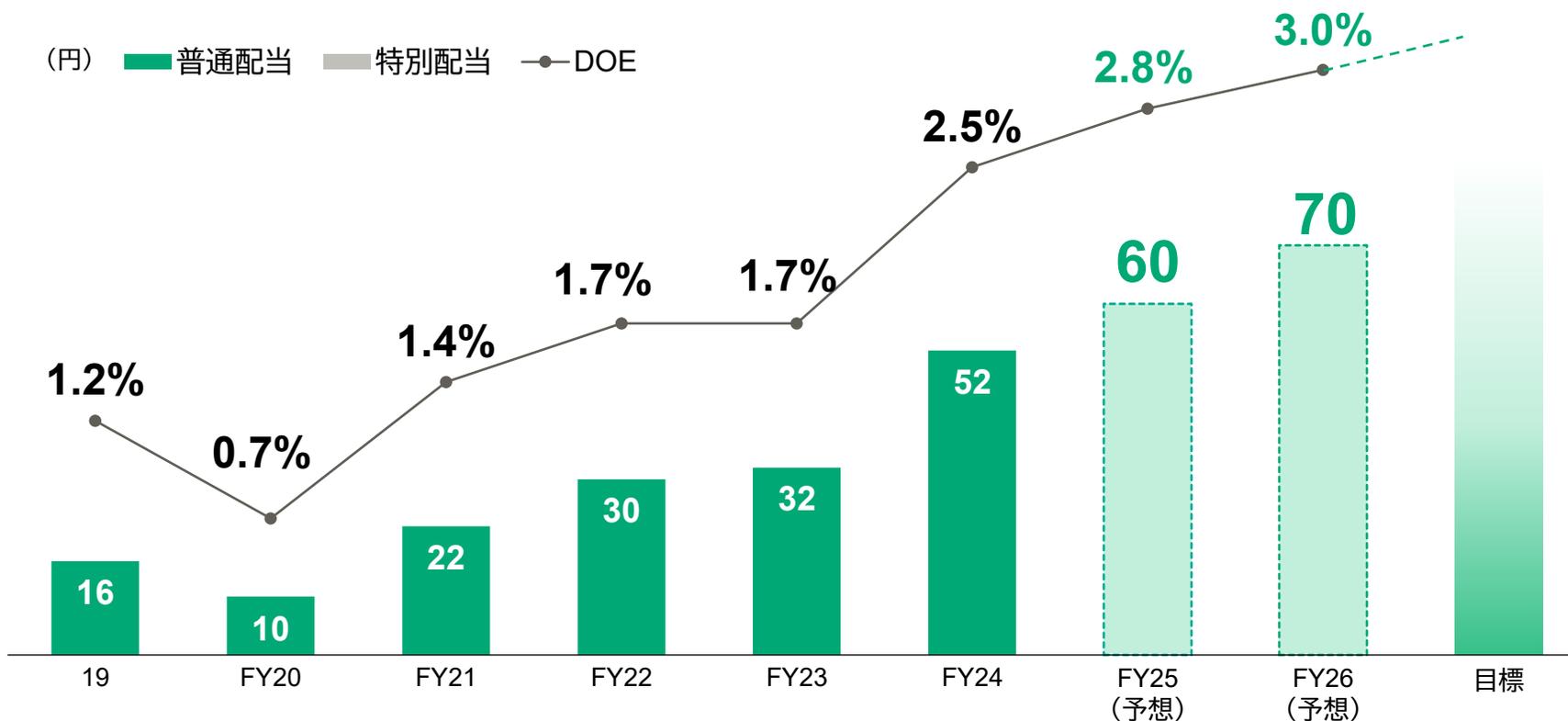
2026年12月期 年間配当予想

- 2026年12月期 年間配当予想は70円(前年比+10円)
- **DOE3.0%(同+0.2ポイント)**で6期連続増配過去最高

配当方針

累進配当 + DOE(自己資本配当率)3.0%を目安として拡充し、その後もDOE向上を継続して検討

配当の状況



代表取締役／役付執行役員／執行役員

■執行役員

氏名	役職	当社における地位・担当
江守 康昌	代表取締役 社長執行役員	CEO
龍村 和久	代表取締役 副社長執行役員	COO 化粧品部門長
児島 大司	取締役 専務執行役員	COO to Chemicals 化学品部門長
李 晶日	取締役 常務執行役員	中国統括 日華化学(中国)有限公司総経理
澤崎 祥也	取締役 執行役員	CFO(Administration) 管理部門長
稲継 崇宏	取締役 執行役員	CTO 化学品部門界面科学研究所長
坪川 恒一郎	執行役員	化粧品部門デミコスメティクスカンパニー バイスプレジデント
佐谷 義寛	執行役員	化粧品部門デミコスメティクスカンパニー 企画統括本部長
三井 彰弘	執行役員	製造統括 プロダクション部門長
日置 由美子	執行役員	品質統括 品質保証本部長
小林 淳孝	執行役員	化学品部門繊維化学品事業部長
中川 大輔	執行役員	化学品部門クリーニング&メディカル事業部長
南部 真一	執行役員	CHRO 管理部門 副部門長

3月26日定時株主総会後取締役会にて選任予定、青文字は新役職または新地位・担当

会社概要

商号	日華化学株式会社(証券コード 4463)
本社	福井県福井市文京4丁目23-1
創立	1941(昭和16)年9月15日
資本金	28億9,854万円
発行済株式数	1,771万株
決算期	12月31日
従業員数	連結／1,576名 単体／628名(2025年12月31日現在)
事業内容	繊維を主とする各種産業用界面活性剤 および化学品、化粧品等の製造・販売
上場証券取引所	東証スタンダード、名証プレミア



中期経営計画 「INNOVATION30」

2026年～2030年

日華化学株式会社

東証スタンダード:4463

2026年2月19日

内容

01

前中期経営計画
「 INNOVATION25 」振り返り

02

新中期経営計画
「 INNOVATION30 」

03

Appendix

01

前中期経営計画
「INNOVATION25」振り返り

2025年度 業績サマリー

- 「INNOVATION25」最終年度は、**売上高・営業利益ともに過去最高**を更新
- 引き続き取り組むべき課題も残るが、**高い目標へのチャレンジで大きな成長**を実現

	2022年度 実績	2025年度 実績	INNOVATION25 目標値	
売上高	506億円	557億円	570億円	△ +10.0%、CAGR 3.2%、過去最高
営業利益	26億円	38億円	40億円	○ +46.4%、未達も大幅増加、過去最高
営業利益率	5.2%	6.9%	7.0%	○ 未達も大幅増加
ROE	8.0%	6.9%	8.0%	△ 税金費用増加により未達
ROIC	4.6%	5.1%	7.0%	△ 戦略的投資により未達
DOE	1.7%	2.8%	—	○ 大きく上昇、3%を目安に拡充
1株あたり配当金	年間30円	年間60円	—	○ 大幅増加、配当方針変更
PBR	0.47倍	0.74倍	—	△ 上昇も1倍未滿
期末株価	830円	1,553円	—	○ 大きく上昇
為替(USD)	132円	150円	132円	円安進行

2025年度 業績サマリー(セグメント別)

- ・**化学品事業の収益性改善**が大きく前進、化粧品事業は新工場建設や人材投資など**戦略的投資**を優先

		2022年度 実績	2025年度 実績	INNOVATION25 目標値	
化学品事業	売上高*1	373億円	404億円	400億円	○ +8.7%、CAGR 2.7%、目標達成、過去最高
	営業利益*1	9億円	27億円	20億円	○ 約3倍、目標達成、過去最高
	営業利益率	2.4%	6.8%	5.0%	○ 大きく上昇、目標達成
	ROIC*2	2.0%	6.1%	5.0%	○ 大きく上昇、目標達成
	EHD*3売上高比率	37%	45%	50%	△ 未達も大きく上昇
化粧品事業	売上高	132億円	152億円	170億円	△ +15.0%、CAGR 4.8%、未達も過去最高
	営業利益	17億円	11億円	20億円	△ -35.8%、戦略的投資を優先
	営業利益率	12.9%	7.2%	11.8%	△ 目標未達
	ROIC	15.3%	3.6%	12.0%	△ 固定資産増加により未達

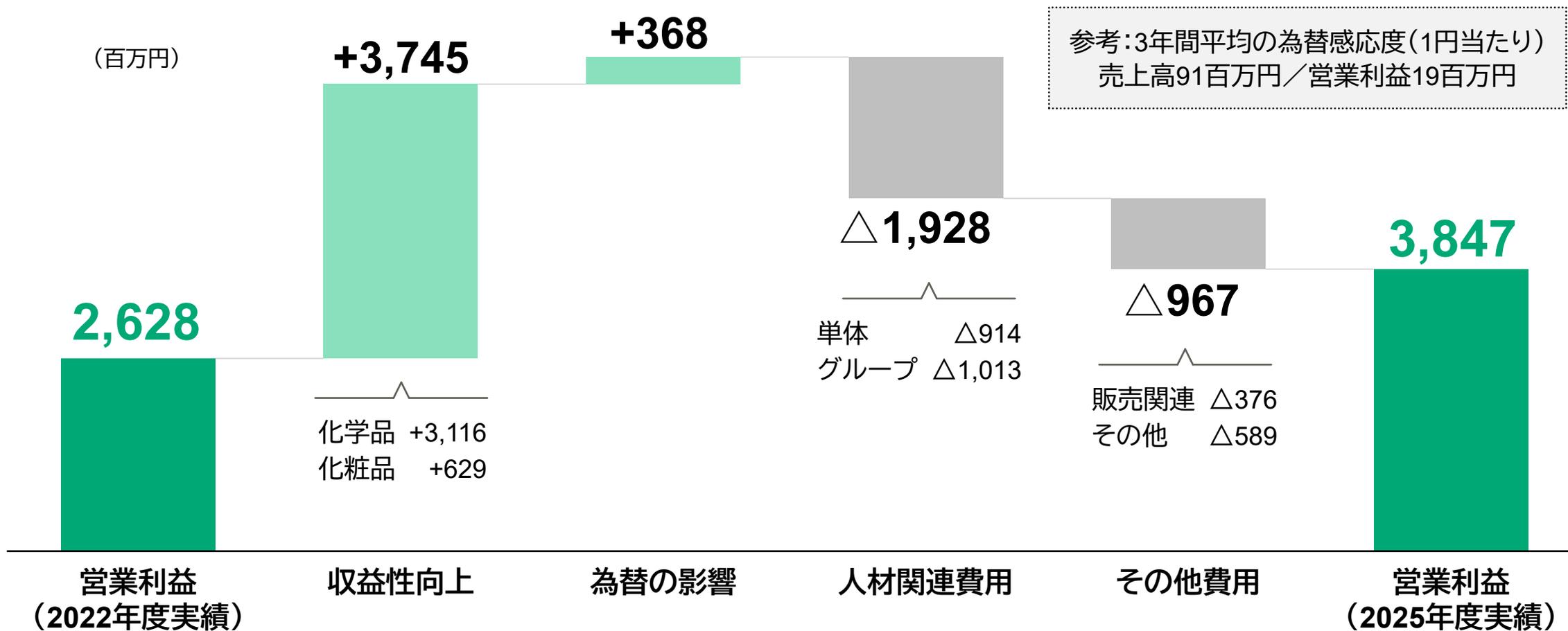
*1 「化学品セグメント」に「その他セグメント」を含め、「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品の各セグメントに配賦して表記

*2 ROICは運転資金及び固定資産等の情報を元にした当社試算値

*3 EHD=Environment/Health/Digital、2019年以降推進している化学品事業の収益性改善に向けた基本戦略の当社指標

2025年度 営業利益(対2022年度)

- 海外を中心とした販売増加に加えて、事業構造の転換により**収益性が大きく向上**
- 化粧品国内、化学品海外を中心に**人材への投資**を実施、各種コストアップもあったが営業利益は大きく成長



前中期経営計画の振り返り

- 想定外の状況乗り越え、**ピンチをチャンス**に変えて力強く成長
- **大きな夢と目標**を掲げ、企業としてのステージを上げてきた

長期ビジョン2016

2010年11月17日公表
2014年3月4日改訂

- リーマンショック後の厳しい時期に策定
- 長期目線で大きなビジョンを設定

売上高500億円

(2018年達成)

東証一部上場

(2016年達成)

新研究所設立

(2017年達成)

INNOVATION25

2017年2月10日公表
2021年2月26日改訂
2023年2月10日改訂

- 「EHD集中戦略」を大方針に
- 「中長期グループ成長シナリオ」を発表
- 「配当方針」を変更

想定外の逆風も 果敢にチャレンジ

- コロナショック
- トランプ関税
- 建設費高騰
- 人件費上昇
- 為替乱高下
- 各国政変
- 地域紛争激化

- ①事業構造の大転換 **EHD売上高比率大幅UP**
• 37%→45% (化学品事業/22年比)
- ②メリハリのある投資 **化粧品新工場投資決定**
• 大規模成長投資補助金採択
- ③生産性改革 **1人当たり営業利益大幅UP**
• 1.4倍 (全社/22年比)
- ④サステナブル経営の推進 **売上当たりCO2削減**
• 10%減 (全社/22年比/24年実績ベース/Scope1-2)
- ⑤大家族主義の進化 **報酬制度改革**
• 初任給、社員報酬UP、従業員向けRS制度導入

02

新中期経営計画
「INNOVATION30」

新中期経営計画の位置づけ

- **事業拡大**と成長投資による**EBITDAの増大**を目指す5年間
- 「中長期グループ成長シナリオ」の目指したい姿(2035年)の売上高を880億円に引き上げ
- 「INNOVATION30」は、中長期グループ成長シナリオの前半フェーズと位置づけ



市場環境認識

マクロ環境

- 環境規制強化、資源制約、地政学リスクの常態化により**サステナブル対応**が産業競争力に直結
- 健康寿命の延伸に加え、未知のウイルスによる脅威など人々の**快適な暮らし**に対する意識が拡大
- **AI・デジタル技術の急速な発展**により、あらゆる産業で工程革新が加速



当社技術力による**社会課題解決の機会**が増加
引き続き**EHD集中戦略**により新たな付加価値を提供

新中期経営計画「INNOVATION30」(2026～2030年) 戦略骨子

パーパス

Activate Your Life

ビジョン

世界中のお客様から
最も信頼される
イノベーションカンパニー

基本戦略

「INNOVATION30」
3大戦略

- ① 事業拡大と成長投資
- ② 財務・資本戦略の強化
- ③ サステナビリティ経営

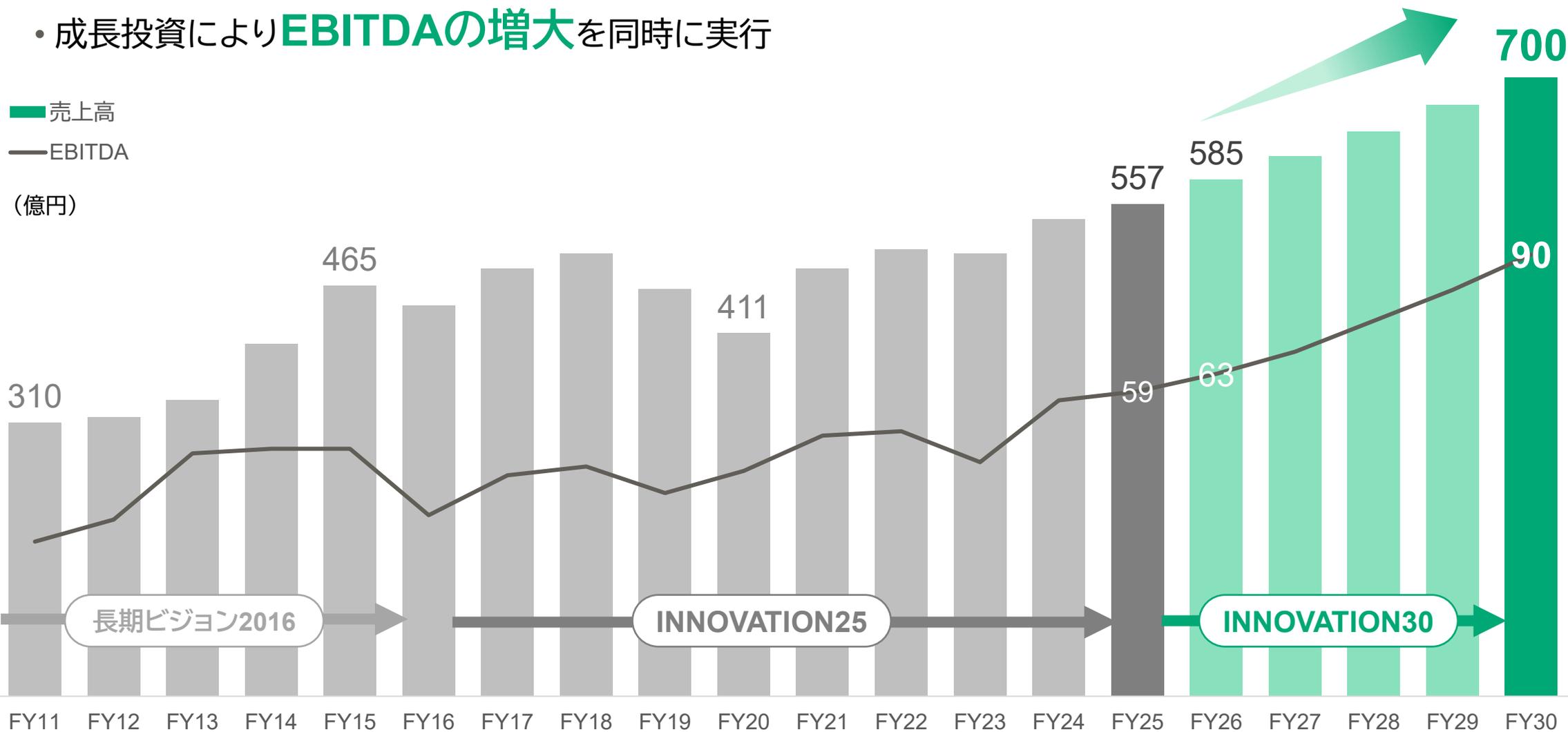
化粧品事業の拡大、化学品EHD領域への傾注

バランスのよいキャッシュフローアロケーションの実行

経営基盤の強化、エンゲージメント向上、CO₂削減

更なる成長へチャレンジ

- ・オーガニックグロースを中心に**これまでに無い飛躍的な成長**を目指す
- ・成長投資により**EBITDAの増大**を同時に実行



新中期経営計画「INNOVATION30」(2026～2030年) 目標指標

- EBITDAを重点指標とし、「稼ぐ力」をより成長させる

	2025年実績	INNOVATION30 2030年目標	
売上高	557億円	700億円	化粧品、化学品ともに成長
営業利益	38億円	56億円	高付加価値事業へ傾注
営業利益率	6.9%	8.0%	安定的に8%以上へ
EBITDA	59億円	90億円	「稼ぐ力」を成長させる
EBITDA率	10.7%	12.8%	ROS以上の成長
ROE	6.9%	8.0%	株主資本コスト*1を安定的に上回る
ROIC	5.1%	6.0%	WACC*1を安定的に上回る
PBR	0.74倍	1.0倍以上	早期達成を目指す
DOE	2.8%	3.0%以上	3%以上かつ継続的に向上を検討

*1 当社の株主資本コストは約8%、WACCは約6%と推定

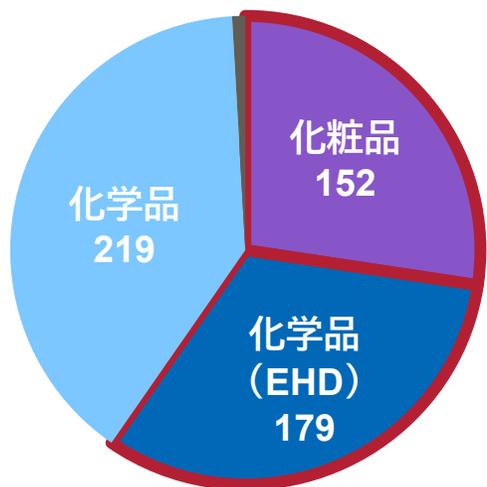
*2 想定為替レート(USD):150円 想定国産ナフサ価格:65,600円/KL

「INNOVATION30」 基本戦略① 事業拡大と成長投資

事業ポートフォリオの大転換

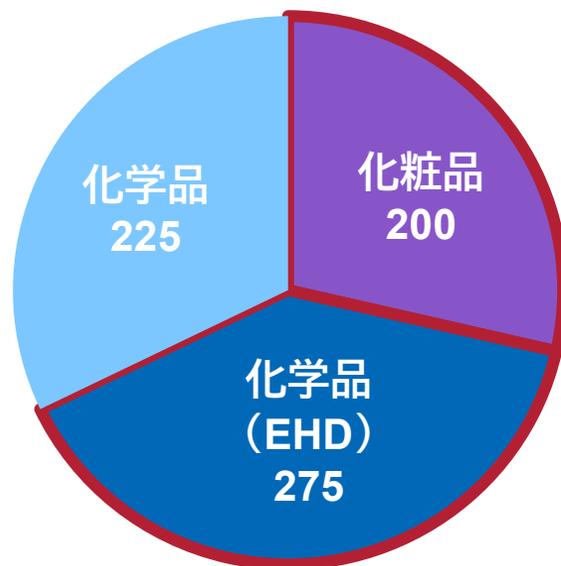
- 化粧品事業と化学品EHD領域の比率を大幅に高めていく

2025年実績



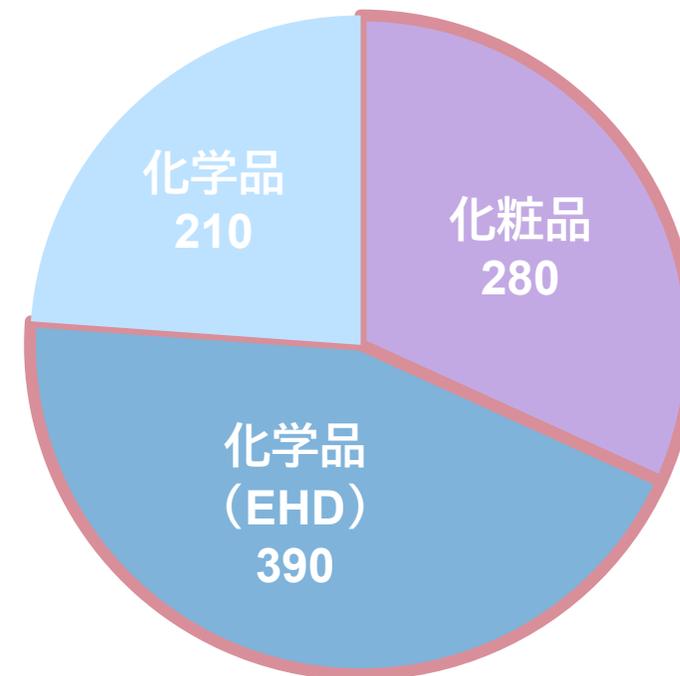
売上高**557**億円
化学品EHD比率45%

「INNOVATION30」目標値
(2030年)



売上高**700**億円
化学品EHD比率55%

目指したい姿
(2035年)



売上高**880**億円
化学品EHD比率65%

化粧品事業(概要)

- 絹を綺麗に洗う・ウールを痛めずに染める技術を毛髪に応用(1981年～)
- 研究開発型企业として、業界で確固たる地位を確立

01

DEMI

ErOL

美容室専売品 (2つの自社ブランド)

*グループ会社:イーラル(株)

施術品

美容師さんが施術で使う業務用の商品



- ヘアケア剤
- スカルプケア剤
- スタイリング剤
- カラー剤 ・パーマ剤 など

店販品

美容室で来客者に販売する商品



- ヘアケア剤
- スカルプケア剤
- スタイリング剤 など

02

ODM

*グループ会社:山田製薬(株)

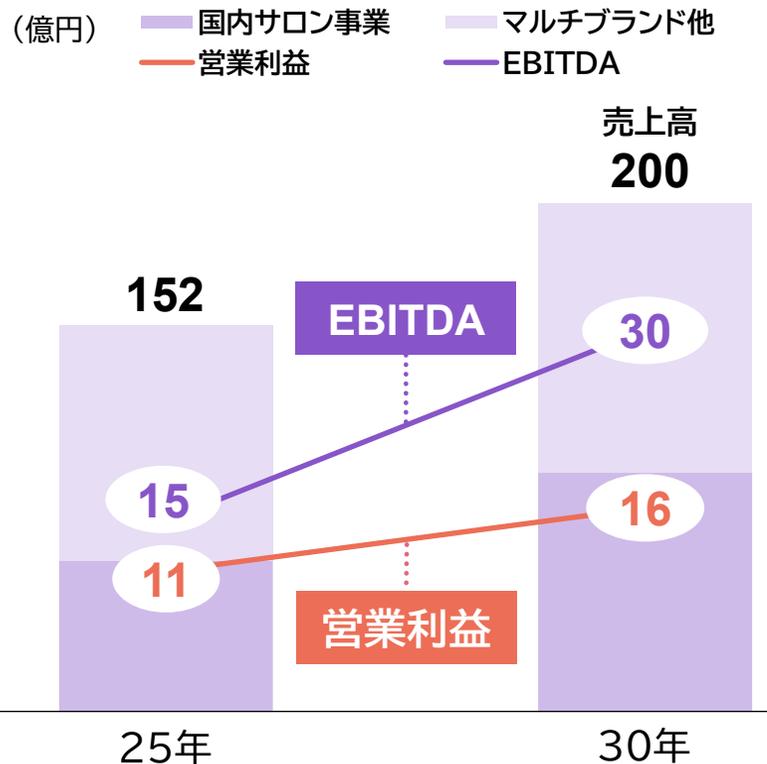
相手先ブランドの
受託開発・受託生産



化粧品事業(基本戦略)

- 「国内サロン事業シェア拡大+マルチブランド強化+多国化」×「新工場」で**稼ぐ力(EBITDA)**を飛躍的に高める

売上高・EBITDA



売上高CAGR **5.6%**
 EBITDA率 **9.9% → 15.0%**

具体的戦略

国内サロン事業シェア拡大

- 営業力と主力ブランドの強化**で有力サロンへの浸透力を高める
 - 営業増員×デジタルプロモーション
 - 「業界評価が高い当社技術力」に加え「顧客視点開発」を強化

マルチブランド強化

- 消費者がヘアケア製品を手にする全てのチャンネルに日華の技術**を
 - 市場変化に合わせた価格帯対応
 - パブリック向けODM市場での新規大型案件獲得

多国化(海外強化)

- 東南アジア主要国への展開**を加速

新工場稼働

- 外注バランス最適化+生産効率向上→**コスト競争力改善**

化粧品事業(新工場)

- ・2027年稼働に向けて予定通り進捗

■ 化粧品新工場 概要

- ・製造キャパシティ**3倍**
- ・自動化による人時生産性**1.5倍**
- ・CO₂排出削減など**環境対応工場**



本格稼働	2027年	投資規模	約195億円
建設予定地	福井県福井市稲津町・荒木新保町(北陸道福井ICより0.5km)	補助金上限額	49億 9,991万円(補助率1/3)
面積	土地/39,772㎡ 建物/23,000㎡(延床面積)	資金調達	総額140億円のシンジケートローン

化学品事業(概要)

・目には見えないけれど、あなたの毎日を支える技術で、国内シェアNO.1・世界トップクラスの製品を多数展開

01

繊維 関連の化学品

工程薬剤

洗う・染める工程等で使用する薬剤



SMART
DYEING
PROCESS

- ✓ 環境負荷低減(節水・省エネ)
- ✓ 生産効率向上(時短)
- ✓ 作業環境改善 に貢献

仕上げ剤

付加価値を加える薬剤



撥水剤・消臭剤



防炎剤・抗菌剤



防汚剤・難燃剤 など

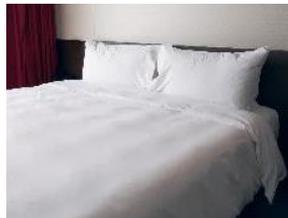
02

クリーニング・医療 関連の化学品

クリーニング用薬剤



ホテルリネン用薬剤



手術器具の洗浄剤 など

03

スペシャリティケミカル

*グループ会社:大智化学産業(株)

半導体用薬剤



新聞紙等の脱墨剤

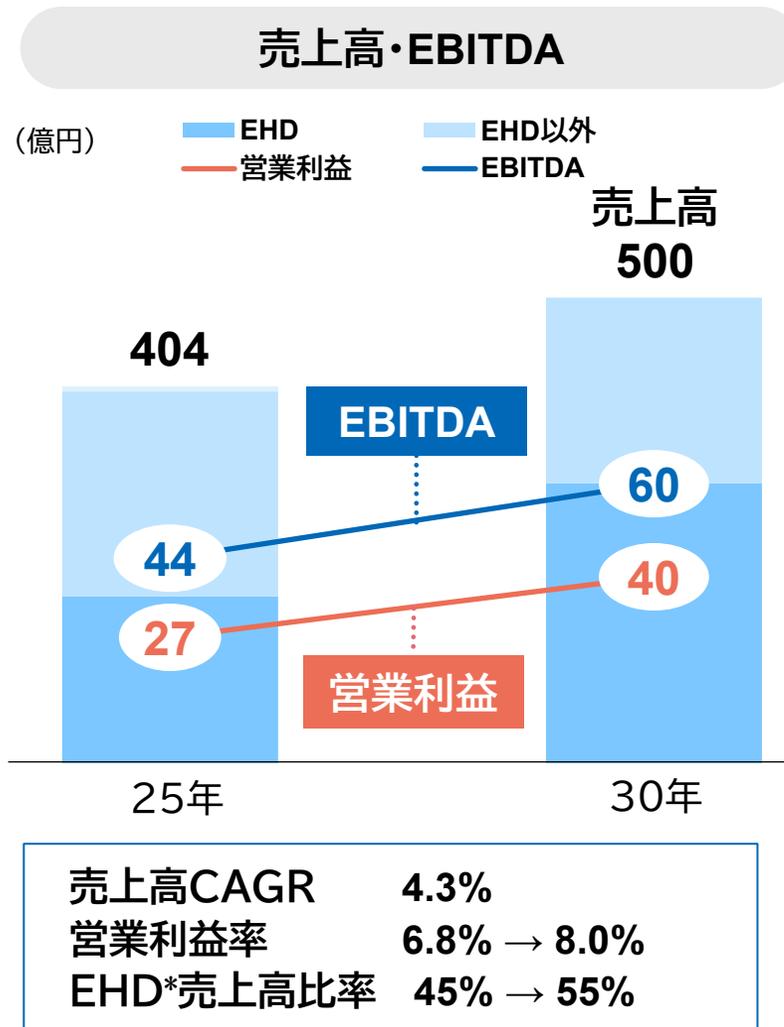


感熱紙用薬剤 など

※青枠の事業・製品 = 国内シェアNO.1または世界トップクラスの製品

化学品事業(基本戦略)

- **EHD集中戦略**、事業構造を転換しつつ新たな市場への展開を図る



具体的戦略

EHD集中戦略

- **環境配慮型製品**やリサイクル事業関連製品で、「E領域」の更なる展開
- 非テキスタイル事業拡大で**スペシャリティケミカルメーカー**としての地位を高める
 - 技術力と顧客基盤を活用し、中長期目線の開発テーマを拡充
 - 半導体周辺分野をはじめ、「D領域」での存在感を高める活動に注力

グローバル展開

- テキスタイル事業は**南西アジア**へのシフトを加速
- スペシャリティ事業は国内での実績を**グループシナジー**で中国をはじめ海外へ
 - 「D領域」は東アジアに注力

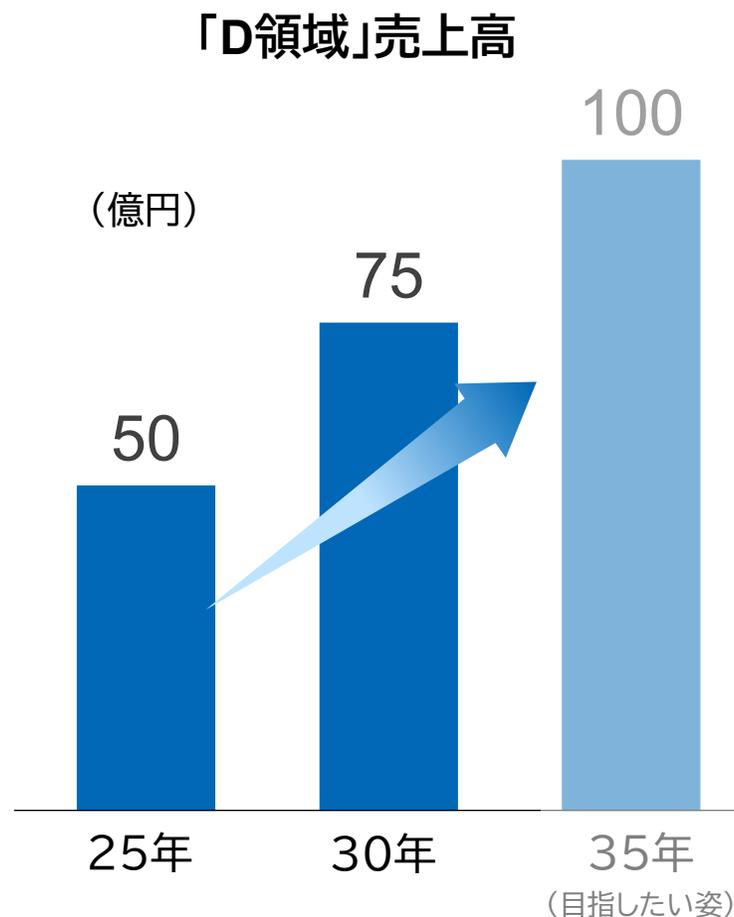
収益性

- **EHD集中戦略**による収益性改革(EHD製品利益率/従来製品比 +11% ※当社調べ)
- 継続的な原料コストダウンの実施

* EHD = Environment/Health/Digital、2019年以降推進している化学品事業の収益性改善に向けた基本戦略の当社指標

化学品事業(デジタル・先端材料領域)

- AI需要の急速な増加等を背景に、**半導体市場は中長期で大きく成長**
- 半導体製造プロセス(切る、削る、磨く、洗う)に対して、当社技術力により**新たな付加価値を提供**



【主力製品】半導体シリコンウェーハ用水溶性クーラント剤
～トップシェア、オンリーワンの資源循環型ビジネス～



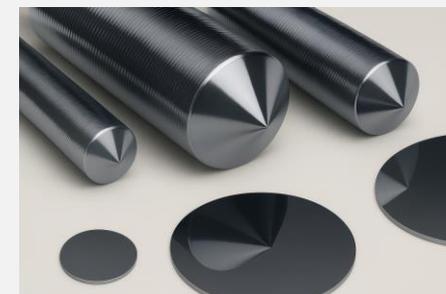
環境にやさしい水溶性

従来は油系のクーラント剤が主流
世の中の環境意識が高まるずっと前より、
環境負荷を抑えた水溶性を開発(1990年代～)



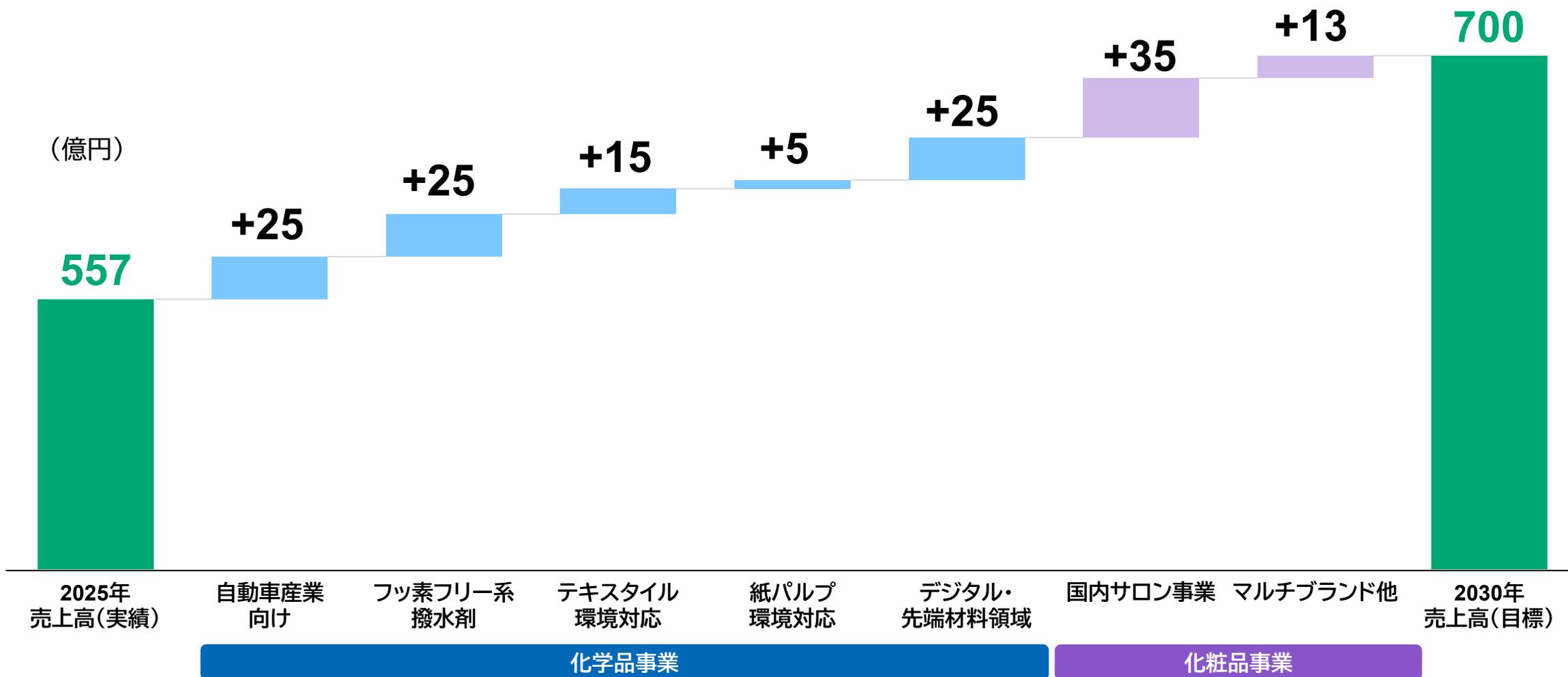
資源循環型ビジネス

顧客から使用済みの廃液を回収
リサイクル(蒸留再生)し、販売を行っている
➡ ゼロエミッション達成に貢献
➡ CO2 排出量を削減



売上高700億円に向けて

- 化学品事業: EHD集中戦略を加速、特に環境、デジタル・先端材料領域での新たな市場獲得へ
- 化粧品事業: 国内サロン事業のシェアアップに加え、ODM事業や海外での事業拡大へ



イノベーション企業に向けて

未来の社会に当社技術が貢献するイメージ

※当社技術が社会に貢献する一例を記載



「天然由来原料」
環境配慮型原料への転換



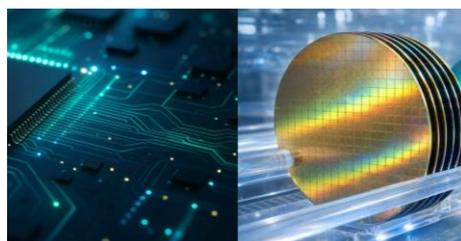
「頭髪用化粧品」
全ての人に美と健康を



「先進的な自動車材料」
未来型車両への技術展開



「デジタル領域向け新技術」
技術力で顧客価値を提供



「半導体産業向け製品」
ゼロエミッションに貢献



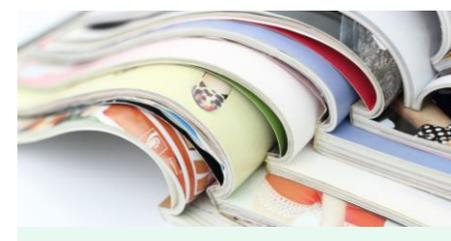
「環境に貢献する新技術」
無水・低炭素・有害物資除去など



「アップサイクル技術」
創造的再利用で環境貢献



「環境にやさしい撥水剤」
健康で快適な生活を

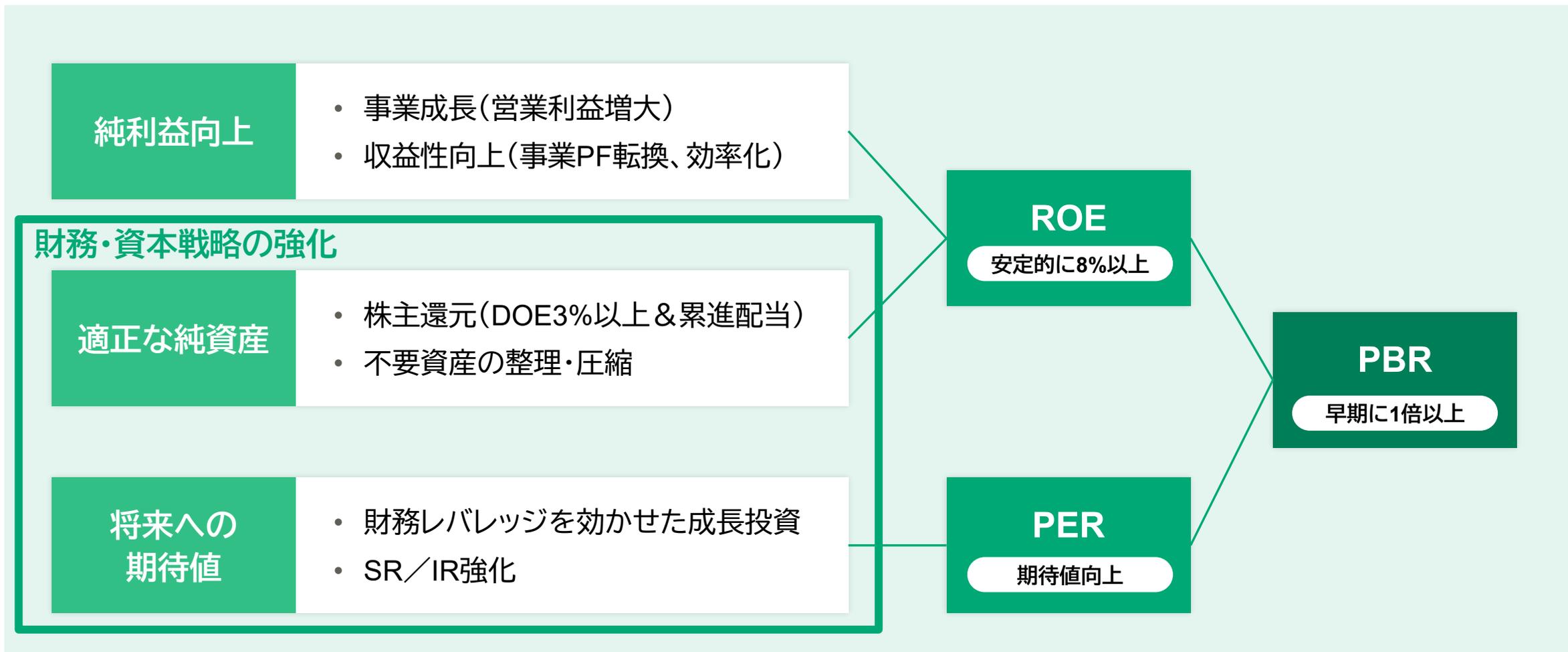


「紙パルプ環境負荷低減」
3R社会への貢献

「INNOVATION30」 基本戦略② 財務・資本戦略の強化

企業価値向上に向けて

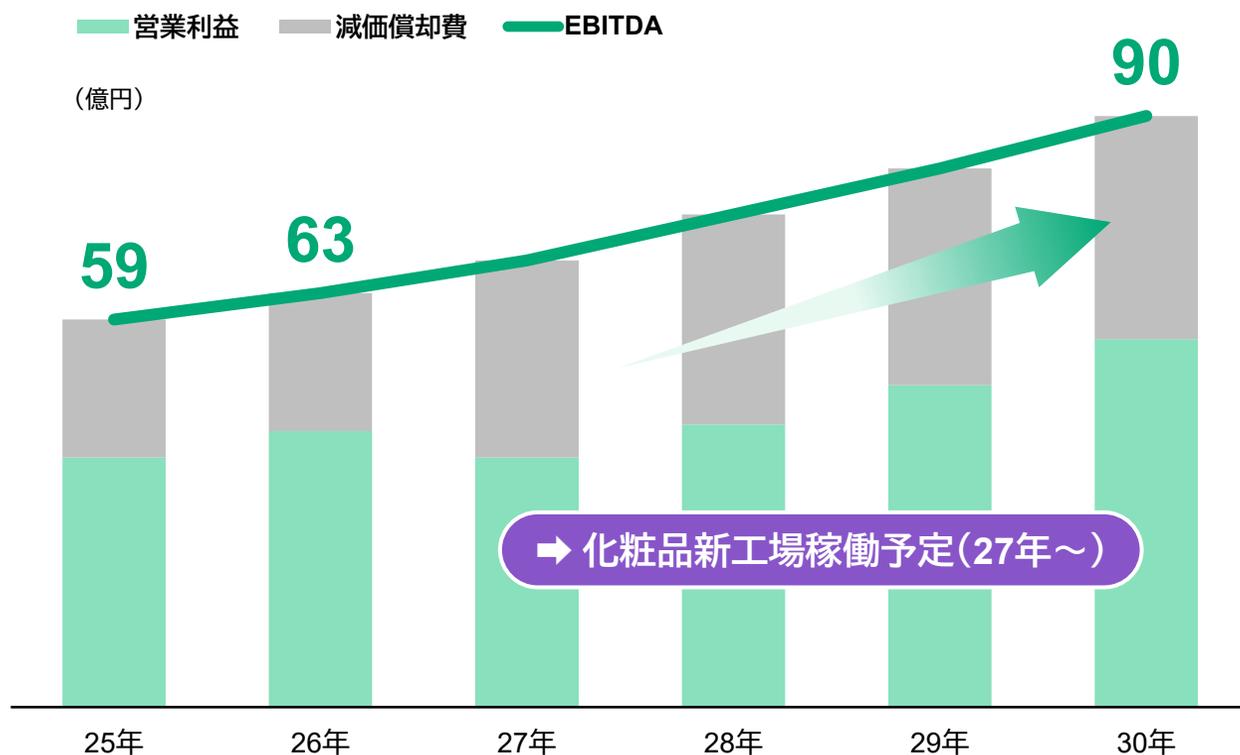
- **PBR1倍**の早期実現に向けて、「グループ成長シナリオ」の基本方針に従って取組みを強化



キャッシュ創出力の最大化

- 積極的な**成長投資**により、EBITDAを大きく成長させる
- 償却負担アップにより数年間は営業利益の伸率鈍化を予想

連結EBITDA*の成長イメージ



* 営業利益 + 減価償却費 (一時費用を除く)

主な投資案件(～2030年)

- 化粧品新工場※ 約**195**億円
(大規模成長投資補助金含まず)
- バングラ保税倉庫※ 約**10**億円
- 新ERPシステム※ 約**10**億円
- 定常投資 約**70**億円



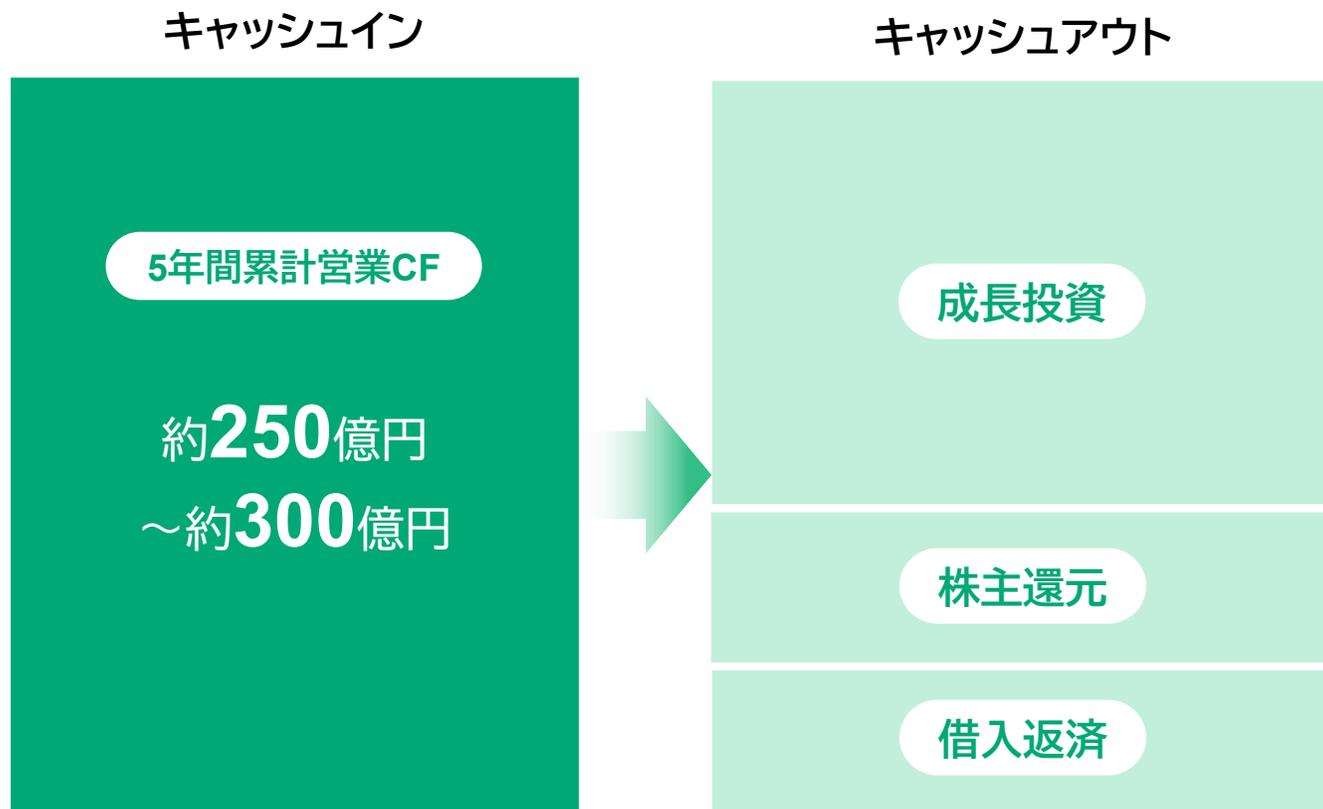
新たな成長投資を継続的に検討

※2027年稼働予定

キャッシュフローアロケーション

- 足元は化粧品新工場資金を中心として借入を行い、**財務レバレッジを効かせた成長投資**を行う
- EBITDAを中心とした営業CFを**バランスよく活用**し、企業価値向上を目指す

2026年～2030年(5年間)の資金使途イメージ



- **成長投資**を積極的に実施
- 定常投資は環境改善と効率化を意識
- 化粧品新工場は借入により資金調達
- **DOE3%** + 累進配当、継続的な向上へ
- 調達余力を確保しつつ、着実に返済
- DEレシオを意識した資金マネジメント

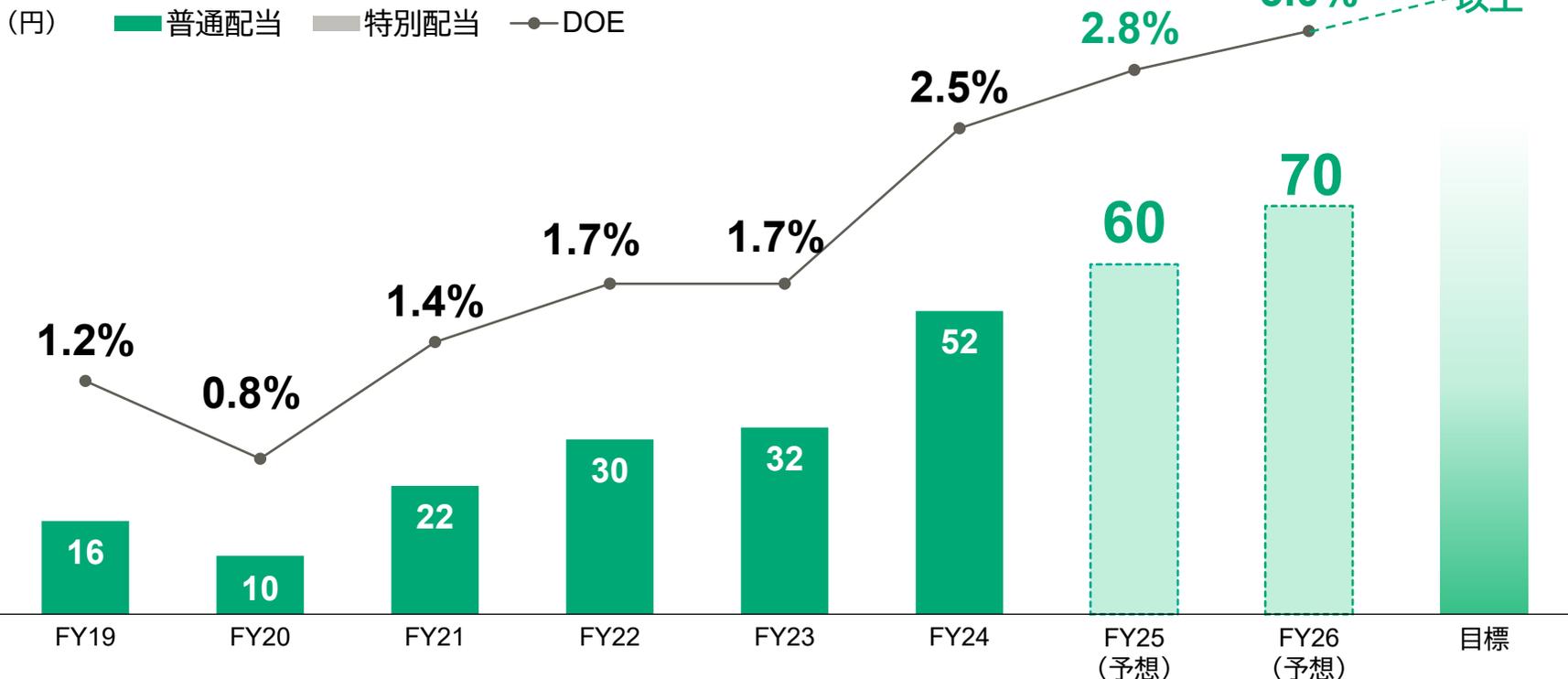
株主還元方針

配当方針

(2026年2月13日更新)

- 年間配当において、**DOE3.0%**を目安として拡充し、その後もDOE向上を継続して検討
- 年間配当において、利益成長を通じたより安定的な配当(維持・増配)である**累進配当**を導入

配当状況



配当利回り

(株主優待含む/500株保有の場合)

4.51%

※2025/12/30時点

当社は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社の事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に、株主優待制度を導入いたしております。



*2025年12月期年間配当金のうち期末配当30円については2026年3月26日開催の定時株主総会で決議予定

「INNOVATION30」 基本戦略③ サステナビリティ経営

持続可能な社会に向けて

- ・人と社会を**アクティベート**することが日華化学の存在意義

パーパス

輝け、カガクで。

Activate Your Life

長年培ってきた「界面カガク」を通じて、人と社会をアクティベートするという決意が込められています。環境、健康、持続可能性など、社会が直面する様々な課題に対し、私たちの技術と挑戦する力で解決策を提供していく。それこそが、日華化学の存在意義です。

マテリアリティ(重要課題)

環境

地球環境を
もったきれいに

くらし

人々のくらし
と生活を快適に

社会

社会を
より豊かに

- ・ グループ全体のCO2実質排出量削減
- ・ EHD事業による社会課題を解決する事業活動
- ・ 仕事を通じた社会貢献活動の推進 など

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



経営基盤の強化

- 全グループ社員の仕事のやりがいと**社員エンゲージメントの向上**へ
- 急速に発展する**デジタルツールを積極的に活用**し企業の競争力を高める

社員エンゲージメント向上



- 人事制度の継続的なアップデート
- 健康経営の推進

AIの積極活用



- AIエージェントによる業務効率化
- デジタル領域へのビジネス展開

新ERPシステム導入



- 2027年～稼働予定
- 以降グローバルに展開予定

社員エンゲージメントの向上

- ・グローバル**全社員がワクワク・活き活き**と働ける環境を整え、イノベーションが巻き起こる企業へ

職場環境



- ・フレキシブルに働ける「フレックスタイム制度」
- ・仕事とライフプランの両立
- ・社員寮「ヴィラージュニッカ」
- ・イノベーションにつながる「Happy Work Place」

NICCA健康経営宣言



- ・健康経営優良法人2025（大規模法人部門）認定
- ・健康経営目標の刷新を計画
- ・ふくい健康づくり実践事業所に認定
- ・社内研修や風土づくりの社内セミナー実施

その他の取り組み

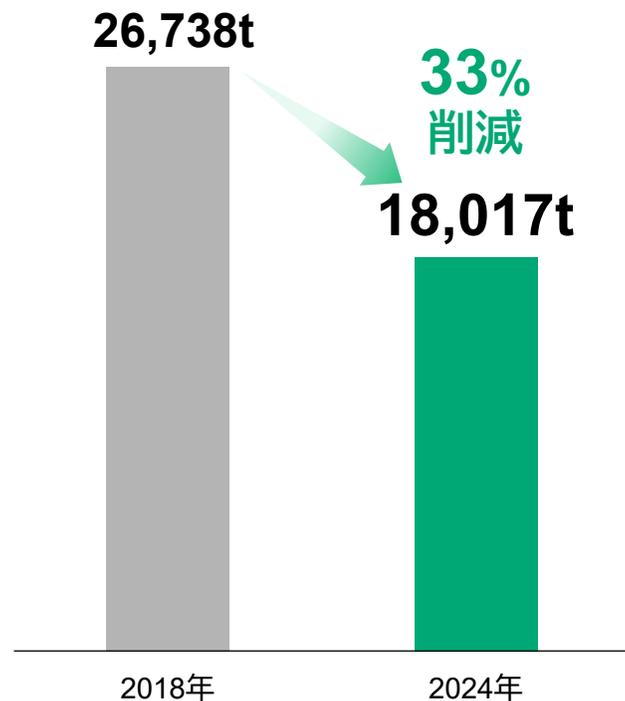


- ・ブラザーシスター制度
- ・自己啓発支援制度
- ・社員持株会制度
- ・ファミリーデーの実施
- ・社員研修旅行 など

カーボンニュートラル社会の実現に向けて

- 2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を**2018年比 30%削減**へ
- 2050年の**カーボンニュートラル社会**の実現に向けて継続的に活動

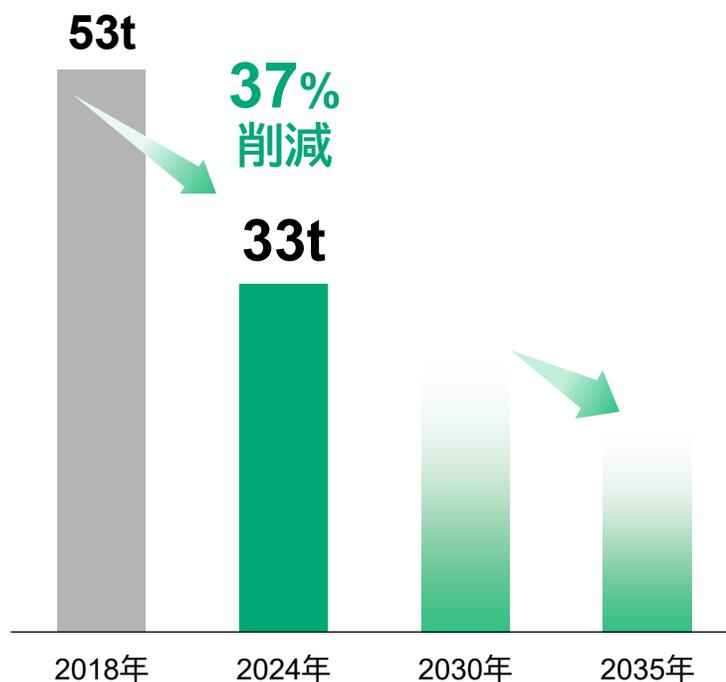
グループCO₂総排出量



算定範囲: Scope1,2

原単位での削減イメージ

(売上高1億円あたり)



主な取り組み

- 2021年、福井県内事業所で**再生可能エネルギー100%**由来の電力利用に切り替え
- 2023年、鯖江工場に**LNG**導入
- 石油由来から**植物由来原料**へのシフト
- 化粧品新工場での**環境対応** (太陽光発電の導入など)
- グループ会社での**再生可能エネルギー由来電力**への切替

事業活動による環境貢献

- 持続可能な社会の実現に向けて、**事業活動を通じた取り組み**を積極的に推進

”Smart Dyeing Process”



工程削減・短縮、排水の公害値低減などをねらった、
サステナブルな染色加工の実現を目指したソリューションの総称

Energy Smart



エネルギー消費・
CO2排出の削減

Water Smart



節水
排水負荷低減

Work Smart



作業環境改善

“ネオクロマト加工®”

水を使わずに、ポリエステル繊維を脱色する独自技術
令和6年度近畿地方発明表彰「近畿経済産業局長賞」を受賞



その他 取り組み

- 山田製薬(株)が環境省の「製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業」に参画
- 大智化学産業(株)が「カーボンフットプリント検証の取り組み」について記事掲載
- NICCA イノベーションセンターが「国土交通省 サステナブル建築等先導事業(省CO2先導型)」に採択
- 鯖江工場が環境省の「SHIFT補助事業」に採択
- CDP「気候変動レポート2023」において「B」スコア獲得

お客様との対話、社員との強い絆を成長の原動力に
当社の技術で豊かな暮らしや輝く未来に貢献していきたい

代表取締役 社長執行役員 CEO
江守 康昌

Activate Your Life

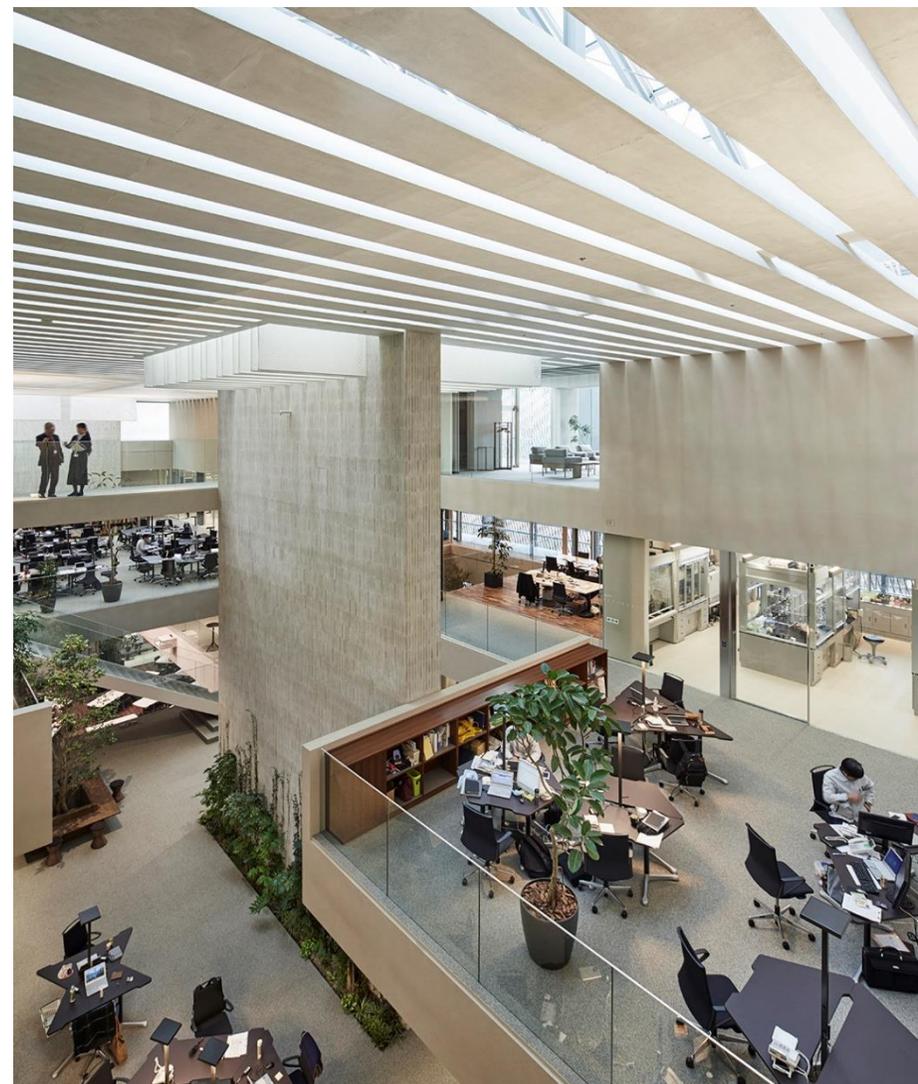
輝け、カガクで。

03

Appendix

会社概要

商号	日華化学株式会社(証券コード 4463)
本社	福井県福井市文京4丁目23-1
創立	1941(昭和16)年9月15日
資本金	28億9,854万円
発行済株式数	1,771万株
決算期	12月31日
従業員数	連結／1,576名 単体／628名(2025年12月31日現在)
事業内容	繊維を主とする各種産業用界面活性剤 および化学品、化粧品等の製造・販売
上場証券取引所	東証スタンダード、名証プレミア



財務データ等推移

(百万円)

項目	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
売上高	44,222	48,493	50,188	46,191	41,179	48,474	50,627	50,169	54,099	55,705
EBITDA のれん償却額反映	3,174	4,056	4,292	3,635	4,187	4,953	5,045	4,308	5,743	5,975
(EBITDA率)	7.2%	8.4%	8.6%	7.9%	10.2%	10.2%	10.0%	8.6%	10.6%	10.7%
減価償却費 のれん償却額含む	1,716	1,940	1,991	2,240	2,771	2,500	2,417	2,269	2,224	2,128
営業利益	1,458	2,116	2,301	1,395	1,416	2,453	2,628	2,039	3,519	3,847
(営業利益率)	3.3%	4.4%	4.6%	3.0%	3.4%	5.1%	5.2%	4.1%	6.5%	6.9%
経常利益	1,588	2,171	2,430	1,334	1,645	2,706	3,132	2,528	3,976	3,849
親会社株主に帰属する当期純利益	346	1,388	2,458	900	1,044	2,595	2,114	1,691	2,754	2,384
1株当り当期純利益(円)	22.09	88.48	156.68	57.33	66.40	164.82	134.08	107.09	174.17	150.28
配当金(円)	20	16	18	16	10	22	30	32	52	60
自己資本比率	33.3%	34.4%	35.6%	36.7%	39.5%	45.9%	49.8%	52.9%	54.0%	47.5%
ROE	2.0%	7.8%	12.6%	4.5%	5.1%	11.3%	8.0%	5.8%	8.6%	6.9%
ROA	2.9%	4.0%	4.1%	2.5%	2.6%	4.4%	4.8%	3.6%	5.9%	5.6%
ROIC	2.9%	4.0%	4.2%	2.4%	2.7%	4.6%	4.6%	3.6%	5.8%	5.1%
DOE	1.8%	1.4%	1.4%	1.2%	0.8%	1.4%	1.7%	1.7%	2.5%	2.8%
研究開発費	2,035	2,065	2,219	2,289	2,019	2,166	2,250	2,296	2,551	2,732
従業員数(人)	1,418	1,472	1,479	1,496	1,500	1,454	1,472	1,500	1,531	1,576

* 2025年12月期年間配当金のうち期末配当30円については2026年3月26日開催の定時株主総会で決議予定

* は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準 第29号)等適用によりそれ以前とは基準が異なる項目

セグメント情報等推移

(百万円)

項目	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期	
売上高	化学品	31,290	35,220	35,502	33,890	28,496	33,773	36,268	35,605	39,378	39,894
	化粧品	12,654	12,494	13,977	11,399	12,175	14,087	13,265	13,977	14,271	15,259
	その他	277	778	708	901	506	612	1,093	586	449	550
セグメント利益	化学品	940	1,887	1,905	1,441	842	1,460	1,861	1,803	3,724	3,948
	化粧品	2,353	2,064	2,285	1,687	2,250	2,794	2,438	2,044	1,822	1,966
	その他	14	69	63	99	43	72	129	64	58	90
	共通	△1,850	△1,905	△1,952	△1,831	△1,720	△1,874	△1,800	△1,871	△2,085	△2,158
営業利益*1	化学品	△155	813	797	441	△146	408	910	744	2,531	2,743
	化粧品	1,613	1,302	1,504	954	1,562	2,045	1,717	1,295	987	1,103
(営業利益率)	化学品	△0.5%	2.3%	2.2%	1.3%	△0.5%	1.2%	2.4%	2.1%	6.4%	6.8%
	化粧品	12.7%	10.4%	10.8%	8.4%	12.8%	14.5%	12.9%	9.3%	6.9%	7.2%
ROIC*2	化学品	△0.4%	2.0%	1.9%	1.0%	△0.4%	1.0%	2.0%	1.6%	5.7%	6.1%
	化粧品	15.1%	10.6%	12.4%	7.7%	13.1%	18.5%	15.3%	10.7%	5.9%	3.6%
EHD売上高比率	化学品	-	-	-	31.4%	36.4%	38.4%	38.4%	42.7%	44.2%	45.1%
期中平均レート	USD	110.29	112.38	110.56	109.37	106.67	109.85	132.70	141.82	151.47	150.42

*1 「化学品セグメント」に「その他セグメント」を含め、「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品の各セグメントに配賦して表記

*2 ROICは運転資金及び固定資産等の情報を元にした当社試算値

* は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準 第29号)等適用によりそれ以前とは基準が異なる項目

輝け、カガクで。

Activate Your Life

お問い合わせ先

日華化学株式会社 IR担当

 (0776)25-8584(直通)

 ir@niccachemical.com

この資料には、2026年2月13日時点の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。

経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。